研究キーワード
インテリアプランニング，家具デザイン，子どもの環境，住宅設計，生活デザイン

遠藤由美子

ENDO, Yumiko

環境学部長，環境経営研究科副研究科長，環境経営研究科環境学専攻長
特任教授

所属…環境学部 環境学科

E-Mail y-endo@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　人間環境実習･演習A･B，福祉住環境計画，エコハウス計画

■研究者略歴

1977（昭和52）年 3月	武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業
1977（昭和52）年 4月	エンドウプランニング（インテリア・家具デザイン）
1989（平成 1）年 4月	遠藤建築スタジオ　共同主宰（建築設計・監理）
1993（平成 5）年 4月	近畿大学工学部建築学科非常勤講師
2002（平成14）年 4月	広島国際大学 工学部 建築学科，住環境学科非常勤講師
2009（平成21）年 4月	鳥取環境大学環境情報学部建築・環境デザイン学科准教授
2010（平成22）年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2012（平成24）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2015（平成27）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授，大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授（兼担） 公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授（兼担）
2016（平成28）年10月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授
2017（平成29）年 2月	公立鳥取環境大学副学長
2020（令和 2）年 4月	公立鳥取環境大学学生支援センター長
2022（令和 4）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部長 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科副研究科長 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻長

Research

■専門分野　建築・インテリア設計，エコハウス

■現在の研究テーマ
・住空間と家具のデザイン
・ものを育てる（遊具，手づくり教材）
・エコハウス／環境共生住宅
・空き家の調査・活用

■受賞歴
1997（平成 9)年　呉市「美しい街づくり賞」（共同／泉が丘の家）
2001（平成13)年　ひろしま街づくりデザイン賞 （共同／キューブハウス）
2001（平成13)年　ひろしま建築文化賞　入選 （共同／板橋さざなみ幼稚園ＡＮＮＥＸ）
2008（平成20)年　ひろしま街づくりデザイン賞 （共同／聖モニカ幼稚園多目的ホール）

■所属学会　建築学会，こども環境学会

■資格　一級建築士，インテリアプランナー，福祉住環境コーディネーター二級，高校教員資格（インテリア）

Data

■研究等活動

【設計活動】
・久保川邸 （広島市西区）
・グループホーム「もやい志和」（東広島市）
・若桜町の農家断熱改修（若桜町）
・呉南特別支援学校 特別支援学校教室・講堂新築工事　基本設計

■社会貢献活動

（委員）
・新温泉町立浜坂認定こども園整備検討委員会アドバイザー
・とっとり21世紀の森運営委員会委員
（活動）
・鳥取市ものづくりアドバイザーとして児童と保護者対象「段ボール手織り機でつくるコースター」講座
・「木育キャラバン　トークセッション」鳥取県林水産部森林・林業振興局
・「住宅の健康に対する影響について」国交省／スマートウェルネス住宅等推進事業：暮らしから始める健康講座講演
・やずミニSL博物館夏休みイベント，「段ボールで作るミニSL」講座指導

研究キーワード
コモンズ，森林管理，先住民，ファミリィフォレスト

根本 昌彦

NEMOTO, Akihiko

環境学部副学部長
教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail nemoto@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　森林科学概論，森林資源管理論，森林政策論

■研究者略歴

1986（昭和61）年 3月	北海道大学農学部林学科卒業
1988（昭和63）年 3月	北海道大学大学院農学研究科修士課程修了
1998（平成10）年 5月	カナダブリティッシュ・コロンビア大学学術博士（Ph.D.）
1998（平成10）年 8月	（財）林業経済研究所　研究員
1999（平成11）年 4月	（財）木材総合情報センター　専門調査員
2003（平成15）年 4月	全国森林組合連合会
2005（平成17）年 4月	同連合会組織部組織グループ長
2006（平成18）年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科教授
2006（平成18）年10月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2009（平成21）年 4月	鳥取環境大学環境マネジメント学科教授
2012（平成24）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科教授
2015（平成27）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授，大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻教授

Research

■取得学位　Ph.D.（ブリティッシュ・コロンビア大学）

■専門分野　森林資源管理学

■現在の研究テーマ　・「持続可能な森林管理」の達成に向けた政策など

■受賞歴　2003（平成15）年林業経済学会奨励賞

■所属学会　林業経済学会，環境社会学会ほか

Data

■研究等活動

【著書】
・『カナダ－なかなか進まない先住民による森林管理』，「森林環境2006」，2006年，朝日新聞社
・『森林認証制度の国際動向』，「森林認証と林業・木材産業」，2004年，林業改良普及協会
・『森林認証制度の可能性―国際的森林認証の動向とインドネシア・マレーシアの試み』，「アジアにおける森林の消失と保全」，2003年，中央法規出版会

【論文】
・韓国における森林政策の展開と山林組合
・メキシコ土地保有制度の展開とコミュニティフォレスト　2021年，森林組合No.607
・スペインにおける森林・林業と私有林―コモンズの解体と造林政策の展開　2020年，森林組合No.602
・ベトナムのファミリィフォレスト―充実する人工林資源とFLEGT，森林認証，森林組合 - 2019年，森林組合No.595
・カナダ，トルドー政権下の環境および森林・木材政策 -「森林バイオエコノミー」の動向に注目して -，2018年，森林技術 No.912，日本森林技術協会
・オーストラリアの違法伐採対策の展開と日本への教訓，2018年，木材情報 No.321，日本木材総合情報センター
・世界の植林地造成の現状と将来展望-文献調査による論点の整理-，2017年，公立鳥取環境大学紀要vol.15
・熱帯林破壊を先導するアブラヤシ農園の拡大 - マレーシア，サバ州における土地利用の展開を事例として -，2015年，鳥取環境大学紀要 vol.14
・世界の違法伐採問題の現局面，2013年，木材情報　No.263，日本木材総合情報センター
・環境・先住民と森林管理問題，2012年，山林　No.1542，大日本山林会
・人工林の世界的拡大と森林管理問題，2012年，木材情報　No.251，日本木材総合情報センター
・森林組合運動と森林認証制度の導入，2007年，にじ　No.617，協同組合経営研究所
・カナダにおける「持続可能な森林経営」の現状と課題，2003年，林業経済 Vol.56,5
・Dynamics of Aboriginal Land Use Institutions : The Rise and Fall of Community Control Over Reserve Systems in the Lil'wat Nation, Canadian Journal for Native Studies, Vol.22,2. 2002年
・カナダ先住民と土地財産権-リルワットネーション居留地におけるコモンズの形成と衰退，1999年，環境社会学研究vol.5.

【報告書】
・オーストラリアの違法木材対策，2018年，日本木質バイオマスエネルギー協会
・県産材認証制度の実態と問題点に関する調査報告書　2014年，日本木材総合情報センター
・合法木材供給システムモニタリング報告書，2010年，全国木材組合連合会

研究キーワード
道徳教育　特別活動　魅力ある学校づくり

前田 哲雄

教授

MAETA,Tetsuo

所属…環境学部 環境学科

Profile

■主な担当科目　教職論，道徳教育の理論と指導法，特別活動及び総合的な学習の時間の指導法，教職実践演習

■研究者略歴

1979（昭和54）年　3月	鳥取大学教育学部小学校教員養成課程卒業
1980（昭和55）年　4月	鹿野町立勝谷小学校教諭
1986（昭和61）年　4月	青谷町立中郷小学校教諭
1995（平成　7）年　4月	青谷町立青谷小学校教諭
2001（平成13）年　4月	鳥取市立鹿野小学校教頭
2006（平成18）年　4月	鳥取市立青谷小学校教頭
2008（平成20）年　4月	鳥取市立大正小学校校長
2011（平成23）年　4月	鳥取市立浜村小学校校長
2014（平成26）年　4月	鳥取市立青谷中学校校長
2017（平成29）年　4月	鳥取市教育センター主任教育相談員
2018（平成30）年　4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授

Research

■取得学位　教育学士（鳥取大学）

■専門分野　道徳教育　学校経営

■現在の研究テーマ
・人物の生き方に学ぶ道徳教育
・自主的，自治的な活動を生かした学校経営

■所属学会　日本道徳教育学会，日本特別活動学会，日本生活科・総合的学習教育学会

■資格　小学校普通免許１級　中学校普通免許２級数学

Data

■研究等活動

【著書】
・「道徳教育を学ぶための重要項目100」（共著），2016年，教育出版社
【論文】
・「総合的な学習の時間における「在り方生き方」教育に関する一考察」，2022年，公立鳥取環境大学紀要
・「人物の生き方に学ぶ道徳教育」，2015年，日本道徳教育学会『道徳と教育』(第333号)
・「生きるモデルに学ぶ道徳の時間」，2009年，『鳥取県道徳教育研究会記念誌』
・「心と学びのひとりだちをめざして」，2016年，『鳥取教弘教育実践研究論文集』第8号
・「子どもたちの力で創り出すよりよい学級・学校生活」，2014年，『平成25年度鳥取市教育論文』
【学会発表】
・「実践に基づく道徳授業の新しい提案」，2014年，日本道徳教育学会（第84回大会）
【報告書】
・日本道徳教育学会（第80回大会）「道徳授業成否の鍵は資料にあり」，2013年，『日本道徳教育学会報』第26号
【会報寄稿】
・「子供たちが道徳授業に求めているもの～鳥取県道徳教育研究会のあゆみから～」2021年，『日本道徳教育学会報』第66号
・「偉人等の「人生の転機」に焦点をあてた道徳授業の必要性」2020年，『日本道徳教育学会報』第61号

■社会貢献活動

・日本道徳教育学会評議員
・日本道徳教育学会鳥取県支部長
・鳥取県道徳教育研究会会長
・鳥取県教職員育成協議会委員
・鳥取市教育委員会教育委員
・鳥取県立青谷高等学校活性化を支援する会会長
・鳥取県立青谷高等学校学校運営協議会会長
・退職校長会気高支部講演会「道徳の時代がやってきた」
・鳥取西中学校保護者講演会「夢や志をもつことに力点を」
・鳥取市教育委員会子育て親育ち講演会「家庭と学校の役割　～家庭で、子どもに身につけさせたいこと～」
・米子市小学校教育研究会道徳部会講演会「道徳科の授業づくりで大切にしたいこと」
・鳥取県立米子高等学校出前授業「これからの生き方と学び方について～納得のいく生き方・働き方を～」
・鳥取市立河原中学校区幼小中連携職員研修会「「在り方生き方」教育のために～」
・鳥取市立高草中学校区小中職員研修会～自治力を育てる特別活動～

研究キーワード
バイオマス, 水素製造, 温暖化対策, 地産地消エネルギーシステム

田島 正喜

TAJIMA, Masaki

サステイナビリティ研究所所長
教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail taji-msk@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　環境とエネルギー, 地域エネルギーシステム論, 循環型社会形成概論, SDGs基礎, 温暖化対策エネルギー技術特論

■研究者略歴

1981（昭和56）年 3月	東京工業大学工学部化学工学科卒業
1983（昭和58）年 3月	東京工業大学大学院総合理工学研究科電子化学専攻修士課程修了
1983（昭和58）年 4月	東京ガス株式会社入社（～2016年12月）
2002（平成14）年 1月	新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）エネルギー・環境技術開発室出向（～2005年4月）
2009（平成21）年 3月	東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻博士課程修了
2011（平成23）年 4月	九州大学大学院工学研究院機械工学部門教授（～2015年3月）
2015（平成27）年 4月	地球環境産業技術研究機構（RITE)CO2貯留G出向（～2017年3月） 九州大学水素エネルギー国際研究センター客員教授（～現在）
2017（平成29）年 4月	公立大学法人公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授
2018（平成30）年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻教授
2020（令和 2）年 4月	公立鳥取環境大学サステイナビリティ研究所所長

Research

■取得学位　博士（農学）（東京大学）

■専門分野　環境・エネルギーシステム論，水素製造システム，バイオマスエネルギー変換技術

■現在の研究テーマ
・バイオマス（下水汚泥，バイオエタノール等）からの水素製造システム（水素ステーション）開発
・地産地消エネルギーシステムによるコジェネレーション評価
・CO2削減システム（ゼロエミッション）検討
・燃料電池自動車，電気自動車からの電力供給を含むスマートエネルギーネットワーク構築研究
・災害等長期停電時の再生可能エネルギー，水素エネルギーを活用した電力自給システム構築研究

■受賞歴
2016年（平成28）年8月　産学官連携功労者表彰 国土交通大臣賞（内閣府）
2018年（平成30）年2月　新エネルギー財団会長賞（新エネ大賞）

■所属学会　日本エネルギー学会，触媒学会

■資格　高圧ガス保安法製造保安責任者，危険物取扱者（甲種），エネルギー管理士（熱），ガス主任技術者（甲種）

Data

■研究等活動

【著書】
・「メタン発酵システム－基礎から実務まで知り尽くす－（コラム），2023年，一般社団法人日本有機資源協会
・「SDGｓを考える――歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会」（共著），2020年，ナカニシヤ出版
・「水素エネルギー社会」（共著），2008年，エネルギー・資源学会
・Hydrogen Energy Engineering : A Japanese perspective (Green Energy and Technology) Co-author, Springer; 1st ed. 2016

【論文】
・下水汚泥消化ガスからの水素製造技術における高沸点炭化水素の影響（共著），2018，第55回下水道研究発表会講演集
・燃料電池自動車用水素を下水から製造し，供給する-水素リーダー都市プロジェクト-（単著），2015，産官学連携ジャーナル誌，Vol.11，No.9
・日本におけるバイオマスを用いた水素ステーション構築の潜在的実現性検討（共著），2009，日本太陽エネルギー学会誌第35巻第５号
・首都圏におけるバイオマス種に応じた水素ステーションの実現性検討（共著），2008，日本太陽エネルギー学会誌第34巻第８号
・Feasibility for Formation of Hydrogen Stations with Various Biomass Resources in Japan, 2008（with S. YOKOYAMA and K. IMOU），Proc. of Renewable Energy 2008
・Estimation Method for the Creation of Hydrogen Stations with Woody Biomass and Livestock Excreta in Japan, 2008（with K. IMOU and S. YOKOYAMA），International Energy Journal, Vol.9
・Estimation Method for the Construction of Hydrogen Society with Various Biomass Resources in Japan - Project of Cost Reductions in Biomass Transport and Feasibility for Hydrogen Station with Biomass -, 2007(with K.IMOU and S.YOKOYAMA), Proc. of World Academy of Science, Engineering and Technology, Vol.22

【報告書・講演会】
・「水素社会における下水汚泥の有効利用」，2018，日本産業機械工業会環境ビジネス委員会講演会
・「地球温暖化の基礎知識と最新情報　水素エネルギー社会への期待」，2018，とっとりエコサポーターズ養成講座
・「地球温暖化と目指すべきエネルギー社会」，2018，公立鳥取環境大学公開講座
・「バイオマスからの水素製造プロジェクト～鳥取での期待～」，2018，公立鳥取環境大学との産学官連携に関する懇談会
・「下水汚泥からの水素製造システム開発」，2017，一般財団法人大阪科学技術センター地球環境技術推進懇談会水再生・バイオソリッド研究会
・「下水汚泥エネルギー化による水素社会構築の可能性」，2017，公益財団法人愛知水と緑の公社第36回下水道研究報告会
・「バイオマス－水素製造モデルの推進－下水汚泥からの水素ステーション構築プロジェクト－」，2017，一般財団法人エンジニアリング協会研究開発企画委員会循環型社会システム研究部会講演会
・「バイオエネルギーの活用による水素社会構築の意義」，2016，一般財団法人エネルギー総合工学研究所2016年度6月度月例研究会
・基調講演「なぜ今，水素社会なのか!?」，2015，下水道展 '15東京「水素社会と下水道」
・「下水汚泥等からの水素製造に関する研究－バイオマスからの水素ステーション形成の考え方－」，2014，第27回下水汚泥の有効利用に関するセミナー　日本下水道協会主催
・「下水汚泥消化ガスを原料とした水素ステーション構築の可能性調査」，2013，再生可能エネルギー先端技術展2013福岡水素エネルギー戦略会議セミナー
・バイオマス種に応じた水素社会の構築予測－バイオマスの収集・運搬コスト削減と水素ステーションの実現可能性予測－（共著），2008，農業機械学会第67回年次大会講演要旨

【特許】
・「燃焼ガスの供給方法，及びその燃焼ガスを供給するためのパイプライン」（単独），2010

■社会貢献活動

・鳥取県商工労働部指定管理候補者審査・指定管理施設運営評価委員会　委員長（2022年度）
・鳥取スタイルPPA関連事業実施事業者等選定委員会　委員長（2022年度）
・鳥取県中部ふるさと広域連合　新たな一般廃棄物処置システム等検討委員会　委員長(2022年度)
・境港カーボンニュートラルポート形成協議会　座長（2022年度）
・鳥取港脱炭素推進協議会　会長（2022年度）
・広島県北広島町バイオマス利用協議委員会　委員長　（2019年～2020年度）
・福岡グリーン水素活用推進協議会，福岡市　顧問（2017年～2023年度）
・国土交通省「水素社会における下水道資源利活用検討委員会」　委員長（2015年～2016年度）
・長崎県下水処理場水素製造施設導入可能性調査評価委員会　委員長（2015年度）
・福岡県福岡水素戦略会議高効率水素製造分科会　座長（2012年～2015年度）
・内閣府総合科学技術会議外部専門家（社会基盤）（2009年度）
・水素供給・利用研究組合（HySUT)技術開発本部　副本部長（2009年～2011年度）
・IEAバイオエネルギー執行委員会日本代表委員（2002年～2005年）

研究キーワード
居場所, 歴史遺産, フードスケープ, 過疎地, ごちゃまぜ

浅川 滋男

教授

ASAKAWA, Shigeo

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

URL 研究室ブログ http://asaxlablog.blog.fc2.com/　E-mail asax@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　歴史遺産保全論, 地域生活文化論, 住まいと建築の歴史, 人間環境実習･演習A･B, 人間環境概論

■研究者略歴

1979（昭和54）年 3月	京都大学工学部建築第２学科卒業
1981（昭和56）年 3月	京都大学大学院工学研究科修士課程修了
1982（昭和57）年 9月	北京語言学院で中国語を研修
1983（昭和58）年 8月	同済大学（上海）留学（～ 1984年8月）
1987（昭和62）年 3月	京都大学大学院工学研究科博士課程単位取得
1987（昭和62）年 4月	奈良国立文化財研究所入所
1991（平成 3）年 4月	学術振興会特定国派遣研究員（中国社会科学院考古研究所等，～7月）
1994（平成 6）年 4月	京都大学大学院人間・環境学研究科併任助教授（住環境保全論～ 2001年１月）
1997（平成 9）年 4月	奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部遺構調査室長（～ 2001年3月）
2001（平成13）年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科教授
2005（平成17）年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科教授
2009（平成21）年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科長（～ 2012年3月）
2012（平成24）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科教授
2015（平成27）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授，大学院環境情報学研究科教授
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻教授

Research

■取得学位　工学博士（京都大学）

■専門分野　住環境保全論, 居場所論, アジア民族建築／建築考古学

■現在の研究テーマ
・ブータン密教・ボン教の遺産と景観
・精進ソバ食, エスニック料理のフードスケープ
・居場所とマイノリティー高齢化過疎社会の双方向支援
・先史～古代の建築考古学
・ナマズ食の比較文化

■受賞歴
1996（平成 4）年12月　鳥取県優秀図書（『橋津の藩倉』）
2004（平成16）年 6月　東北建築賞（「御所野縄文博物館」）
2008（平成20）年11月　安土城・摠見寺再建学生設計競技「優秀賞」（研究室として受賞）

■所属学会　日本建築史学会，日本中国考古学会

■資格　木造建築士，２級建築士

Data

■研究等活動

【著書】
・『チベット仏教求法僧 能海寛と宇内一統宗教－明治の国粋とグローバリズム』（編著）2021年
・『建築フィールドワークの系譜』（共著）2018年
・『建築考古学の実証と復元研究』（単著）2013年　・『出雲大社の建築考古学』（編著）2010年
・『埋もれた中近世の住まい』（編著）2001年　・『離島の建築』（単著）2000年
・『先史日本の住居とその周辺』（編著）1998年
・『住まいの民族建築学　―江南漢族と華南少数民族の住居論―』（単著）1994年

【論文】
・「ブータンが教えてくれた居場所のあり方」（単著）2022年
・「菅原遺跡『円堂』の復元」（共著）2022年
・「家庭処処－回憶八十年代」（中文・単著）2021年
・「従東大寺頭塔看宝塔的起源－与藏伝仏教卒塔婆的結構和配置相比較」（中文・単著）2019年
・「科学性年代測定和建築史研究－日本木造建築構件和不丹夯土版築跡的分析－」（中文・単著）2019年
・「『賽の河原』の風景－摩尼山地蔵堂の考証と復元－」（単著）2019年
・「西ブータンの崖寺と民家－八地区を中心に－」（共著）2018年
・「日本的建築考古学－魏志倭人伝和三世紀的大型房子」（中文・単著）2018年

【報告書】
・『居場所とマイノリティーブータンとウクライナ, そして過疎社会－』2023年
・『ブータンの風に吹かれて－中後期密教空間の比較文化－』2022年
・『古民家「終活」の時代』2021年
・『能海寛を読む－「世界に於ける仏教徒」の口語訳と批評－』2020年
・『魏志倭人伝を読む－後漢書倭伝・魏志倭人伝・宋書倭国伝－』2019年
・クンサン・チョデン『メンバツォー炎立つ湖－』『心の余白』『グルリンポチェがやってくる』（訳）2015～2017年
・『大雲院の建造物と仏教美術』2017年『大雲院仏教美術品目録』2016年
・『倉吉の歴史まちづくり』『地蔵盆を未来へ－倉吉の歴史まちづくり（Ⅱ）－』2015～2016年
・『近世木造建造物の科学的年代測定に関する基礎的研究』2015年
・『聖なる巌（いわお）－窟（いわや）の建築化をめぐる比較研究－』2013年
・『摩尼寺「奥の院」遺跡－発掘調査と復元研究－』2012年
・『大山・隠岐・三徳山－山岳信仰と文化的景観－』2011年

■社会貢献活動
・登録記念物「摩尼山」活用整備委員会委員長　・中村元記念館東洋思想文化研究所研究員
・中国西南民族研究学会東アジア人類学専門委員会特別委員
・仙台市「縄文の森」復元建物整備指導委員

研究キーワード
持続性, 人工生態系, 適正技術, バイオリージョナリズム, 文明

荒田 鉄二

ARATA, Tetsuji

人間形成教育センター副センター長（英語副専攻担当）
教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail t2-arata@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　環境と倫理, 環境と文明, 環境学概論

■研究者略歴

1985（昭和60）年 3月	千葉大学 園芸学部 環境緑地学科　卒業
1985（昭和60）年 4月	株式会社 エックス都市研究所 研究員
1992（平成 4）年 3月	東京農工大学 大学院 農学研究科 環境保護学専攻（修士課程）修了
1993（平成 5）年 7月	株式会社 環境文明研究所 主任研究員
2003（平成15）年 4月	NPO法人 循環共生社会システム研究所 主任研究員
2004（平成16）年 4月	吉備国際大学 政策マネジメント学部（環境リスクマネジメント学科）准教授
2009（平成21）年 4月	鳥取環境大学環境マネジメント学科准教授
2012（平成24）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2013（平成25）年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2015（平成27）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授，大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授
2018（平成30）年10月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授，大学院環境経営研究科環境学専攻教授

Research

■取得学位　修士（農学）（東京農工大学）

■専門分野　環境哲学，文明論，持続性論

■現在の研究テーマ
・持続不可能性の根源に関する研究
・文明の避難場所づくりに関する研究
・環境と経済を巡る認識，期待および判断に関する研究

■所属学会　地球システム・倫理学会，環境社会学会　ほか

Data

■研究等活動

【著書】
・2012年 環境マインド養成講座 第3部（共著），2012年，環境教育センター（人間環境大学内）

【論文】
・過剰開発：ドイツに行って考えたこと, KIESS MAIL NEWS, 2020年1月, NPO法人循環共生社会システム研究所
・ローマは1日にして滅びず―ガブリエルとオルテガをめぐって―（単著）, KIESS MAIL NEWS, 2018年12月, NPO法人循環共生社会システム研究所
・精神を病んだ21世紀社会vs環境文明21（単著）, 環境と文明, Vol.26 No.11, 2018年, NPO法人環境文明21
・収量逓減の法則（単著）, KIESS MAIL NEWS, 2018年5月, NPO法人循環共生社会システム研究所
・マインドセットを変える（単著）, KIESS MAIL NEWS, 2016年, NPO法人循環共生社会システム研究所
・人と自然：橋は燃やされた―ジャン・アンビュルジェによる環境倫理の根拠づけ（単著）, KIESS MAIL NEWS, 2016年, NPO法人循環共生社会システム研究所
・ローカリゼーションのすすめ（単著）, 環境と文明, Vol.24 No.2, 2016年, NPO法人環境文明21
・進歩と救い（単著）, KIESS MAIL NEWS, 2015年, NPO法人循環共生社会システム研究所
・若者の環境意識：経済成長と地球環境問題の関係（単著）, 環境と文明, Vol.23 No.1, 2015年, NPO法人環境文明21
・生き延びるための食と農（単著）, 環境と文明, Vol.22 No.5, 2014年, NPO法人環境文明21
・成長と大きさの限界について（単著）, KIESS MAIL NEWS, 2013年, NPO法人循環共生社会システム研究所
・文明の避難場所づくり（単著）, 環境と文明, Vol.21 No.9, 2013年, NPO法人環境文明21

【報告書】
・東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究（平成25年度環境研究総合推進費補助金研究事業）報告書（共著），2014年，鳥取環境大学
・日本海に面した海岸における海ごみの発生抑制と回収の促進に関する研究（平成23年度循環型社会形成推進科学研究費補助金研究）報告書（共著），2012年，鳥取環境大学

■社会貢献活動

委員：鳥取県森林環境保全税関連事業評価委員会委員（平成25～令和4年度）
委員：鳥取県森林環境保全税のあり方検討会（令和4年3月～10月）
委員：鳥取地方労働審議会委員（平成25～令和5年9月）
理事：NPO法人 循環共生社会システム研究所

研究キーワード
理科教育，ICT活用教育，学習科学

千代西尾祐司　教授

CHIYONISHIO, Yuji

所属…環境学部 環境学科

Profile

■主な担当科目　理科指導法１．２．３．４，教育の方法と技術

■研究者略歴

1987（昭和62）年 3月	鳥取大学農学部農芸化学科卒業
1989（平成 元）年 4月	倉吉市立河北中学校 教諭
1992（平成 4）年 4月	国府町立国府中学校 教諭
1995（平成 7）年 4月	河原町立河原中学校 教諭
2001（平成13）年 4月	鳥取大学へ研修派遣
2002（平成14）年 4月	鳥取県教育センター 指導主事・研修主事
2007（平成19）年 4月	智頭町立智頭中学校 教諭
2008（平成20）年 4月	鳥取県教育委員会事務局 小中学校課 兼 高等学校課 指導主事
2011（平成23）年 4月	鳥取県教育委員会事務局 高等学校課 指導主事（平成26年3月まで）
2013（平成25）年 4月	鳥取大学 客員准教授（兼務:1日/週）（平成27年3月まで）
2014（平成26）年 4月	鳥取県教育センター 指導主事（ICT活用教育担当）
2015（平成27）年 4月	鳥取県教育センター 教育企画研修課　課長補佐
2016（平成28）年 4月	島根大学大学院 教育学研究科（教職大学院）教授
2021（令和 3）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 教授

Research

■取得学位　農学士（鳥取大学）

■専門分野　理科教育，ICT活用教育，学習科学

■現在の研究テーマ
・子どもたちの学びを，より豊かにするための「アクティブラーニング」の視点を取り入れた教育実践の開発
・GIGAスクール構想における，一人一台端末時代に応じた授業でのICT活用
・天体観望におけるテクノロジー活用によって，知識やスキルのない者でも観望を可能にする方法論の確立・テクノロジーを用いた，新しい視点での理科教材作成
・ICT支援員における効果的な授業支援力の向上研究（共同研究）　など

■所属学会　日本教育経営学会

■資格　中学校教諭1級普通免許状(理科)，高等学校教諭2級普通免許状(理科・農業)

Data

■研究等活動

【著書】
・「主体的・対話的で深い学びに導く 学習科学ガイドブック」（編者），2019年，北大路書房

【論文】
・「理科教育における，STEAM教育教材としての電視観望技術の実践的活用　- Plate Solving技術とCMOSカメラを活用した天体観望の運用 -」(共著)，2021年，学校教育実践研究 vol.:4（島根大学大学院教育学研究科）
・「理科単元学習内での協調学習による生徒の考えの変容　一概念地図を用いた科学概念変化の見取り一」(共著)，2021年，島根大学教育学部紀要.54巻
・「外国人児童生徒を有するクラスにおける「主体的，対話的で深い学び」を指向した実践と展望 一言語情報に依存しにくい教材による協働的な学びづくり一」(共著)，2020年，学校教育実践研究 3（島根大学大学院教育学研究科）
・「天体の電視観望技術を用いた教材開発 -CMOSカメラとPlate Solving技術を活用した天体観望教材-」(共著)，2019年，学校教育実践研究 vol.:2(島根大学大学院教育学研究科)
・「情報モラル指導分野での「考え議論する道徳」一大学院生の出張型授業による地域貢献の取り組み一」(共著)，2018年，学校教育実践研究 vol:1 (島根大学大学院教育学研究科)
・「鳥取県におけるICT活用教育推進の方向性検討について：ICT活用教育推進協議会の提言と推進ビジョンの策定」(共著)，2015年，鳥取大学教育研究論集 5
・「教養教育実践を通した主体的・自立的学習者の育成と評価：学習科学を学ぶことでのメタ認知能力育成(2)」(共著)，2015年，鳥取大学教育研究論集 5
・「教養教育実践を通した主体的・自立的学習者の育成と評価：学習科学を学ぶことでのメタ認知能力育成」(共著)，2014年，鳥取大学教育研究論集 4
・「鳥取県の高等学校教育における学習理論研修を通した学習科学の知見の導入：平成24年度，平成25年度の2年間の実践を通した結果と考察」(単著)，2014年，鳥取大学教育研究論集 4

【映像教材】
・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために- 校内OJT用映像教材（DVD），2017年

■社会貢献活動

・文部科学省委託事業「石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想事業」の実施に係る指導助言及び事業評価委員（2020年度～2023年度）
・ICT支援員業務における効果的な授業支援力の向上支援(共用研究)(2018年度～現在)
・科学の甲子園及び科学の甲子園Jr　鳥取県大会指導助言等 (2022年度～現在)
・放送大学面接授業講師「今求められる学びと学習科学」(2022年度～現在)
・「鳥取県ICT活用教育推進ビジョン」改定にかかるアドバイザー (2019年度～ 2020年度)
・松江東高等学校，総合的な探究の時間「地域共創人育成Project」教育プログラム開発ワーキンググループ委員(2019年度～ 2020年度)
・出雲第二中学校夏季研修会講師「主体的・対話的で深い学び」から「ICT活用」(2017年度～ 2020年度)
・第59回教育委員会対象セミナー（教育家庭新聞社主催）「主体的・対話的で深い学びの実現とタブレット端末活用」(2019年)
・国立教育政策研究所プロジェクト研究「児童生徒の資質・能力を育成する教員等の養成，配置，研修に関する総合的研究」委員(2016年度)

研究キーワード
細菌，微細藻，窒素循環，汽水，分子生態

吉永 郁生

YOSHINAGA, Ikuo

地域イノベーション研究センター長，人間形成教育センター副センター長（地域実践副専攻担当）
教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail iyoshina@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　海洋環境学概論，自然環境保全実習･演習A，自然環境保全概論，水域生態学，鳥取学

■研究者略歴

1985（昭和60）年 3月	京都大学農学部水産学科卒業
1987（昭和62）年 3月	京都大学大学院農学研究科修士課程水産学専攻修了，同博士後期課程進学
1990（平成 2）年 5月	同上退学，京都大学農学部助手
1991（平成 3）年 5月	京都大学農学博士学位取得
1996（平成 8）年 9月	文部省在外研究員としてアメリカ合衆国オレゴン州立大学に留学 （～ 1997年7月）
2007（平成19）年 4月	京都大学大学院農学研究科助教
2013（平成25）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2015（平成27）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター長・大学院環境情報研究科環境学専攻教授
2022（令和 4）年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター副センター長

Research

■取得学位　農学博士（京都大学）

■専門分野　海洋微生物学，微生物生態学

■現在の研究テーマ
・二枚貝餌料環境解析のためのマイクロバイオーム手法の開発
・汽水域の微生物の研究
・海洋の微細藻・大型海藻・海草に生じる微生物被膜の研究
・海域の線虫類に関する研究
・鳥取県の水産業の振興
・有明海再生のための提言
・東日本大震災で被害を受けた沿岸海域の復興過程の微生物学的研究

■受賞歴
1997年 4月　水産学会奨励賞
2008年11月　日本微生物生態学会論文賞

■所属学会　日本微生物生態学会，日本水産学会，日本農芸化学会，マリンバイオテクノロジー学会，藻類学会，International Society of Microbial Ecology, American Society of Microbiology

■資格　第１種衛生管理者，潜水士

Data

■研究等活動

【著書】
・「いのちの循環「森里海」の現場から-未来世代へのメッセージ72」（共著）2021年, 花乱社
・「有明海再生への道」（共著）, 2014年, 花乱社
・「海の環境微生物学-増補改訂版」（共著）, 2011年, 恒星社厚生閣
・「難培養微生物研究の最新技術 II―ゲノム解析を中心とした最前線と将来展望―（Current Technology and Perspectives for Yet-uncultivated Microbial Resources)」（共著）, 2010年, シーエムシー出版
・「微生物ってなに？―もっと知ろう！身近な生命」（共著, 2006年, 日科技連）

【論文】
・「東日本大震災後の気仙沼湾底質におけるn-ヘキサン抽出物重量法による流出油の影響評価の検討」, 2016年, 沿岸海洋研究
・「環境微生物の視点から見た貝殻敷設の有用性」, 2014年,『月刊海洋』532号, 海洋出版
・「森里海連環の哲学からみた有明海の窮状と新たな視点としての微生物の役割」, 2013年,『アカデミア』140号, 日本学士会
・「津波の海に生きる未来創生－気仙沼舞根湾調査」（共著）, 2012年,『海洋と生物』２０３号, 生物研究社
・「シャットネラ殺藻細菌の扶育場としてのバイオフィルム」, 2012年, 日本水産学会誌
・「環境中の窒素の循環とあらたな経路としてのアナモックス」（共著）, 2012年, 日本水産学会誌
・「Germination fluctuation of toxic Alexandrium tamarense and A. catenella cysts and its relationship with bloom occurrences in Kesennuma Bay, Japan」（共著）, 2017年, Harmful Algae.
・「Complete Genome Sequence of Bradyrhizobium sp. S23321: Insights into Symbiosis Evolution in Soil Oligotrophs」（共著）, 2012年, Microb. Environ.
・「Detection of Anammox Activity and 16S rRNA Genes in Ravine Paddy Field Soil.」（共著）, 2012年, Microb. Environ.
・「 Evidence of Exponential Growth of an Anammox Population in an Anaerobic Batch Culture.」（共著）, 2012年, Microb. Environ.
・「Diversity of anaerobic ammonium oxidation (anammox) bacteria in the sediment of a eutrophic freshwater lake.」（共著）, 2011年, Microb. Environ.
・「Algicidal bacteria in particle-associated form and in free-living form during a diatom bloom in the Seto Inland Sea, Japan.」（共著）, 2010年, Aquat. Microb. Ecol.
・「環境中のアナモックス細菌と窒素循環」（共著）, 2009年, 化学と生物

【報告書】
・「自然機能を活用した流出油の分解過程の解明-人工漂着油分解過程の細菌相調査」（共著）, 2003年, 生物的油濁処理技術回発・効果的利用検討事業報告書, 財団法人漁場油濁被害救済基金

■社会貢献活動

・NPO法人「SPERA森里海・時代を拓く」 理事（2013～）
・出前授業（静岡県榛原高校，岡山県明誠高校，鳥取県青谷高校，福岡県伝習館高校など） 講師（2014～）
・放送大学 講師（2019）
・シニア自然大学（大阪市，朝日新聞社後援）「水の講座」 講師（2018）
・岩美町水産業再生委員会 委員（2014～）
・日本農芸化学会鳥取支部 参与（2016～）
・環境省ETV事業審査部会委員（2014～）
・鳥取県試験場評価委員（2017～）
・鳥取市環境審議会委員（2018～）

研究キーワード
都市居住，人間居住，職住併用住宅，都市保全，生活交流空間・場所

張　漢賢

副学長補佐（教育，入試，研究，情報担当）
教授

CHONG, Hon Shyan

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail shyan@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　人間居住論，都市居住計画，途上国の都市発展

■研究者略歴

1992（平成 4）年 3月	京都大学工学部　建築学第二学科卒業
1994（平成 6）年 3月	京都大学大学院工学研究科　修士課程修了（環境地球工学専攻 居住空間工学講座）
1994（平成 6）年 4月	株式会社高橋上田設計事務所　設計担当
1996（平成 8）年 4月	AKITEK WAC（マレーシア）　アシスタント・アーキテクト
2000（平成12）年11月	京都大学博士（工学）
2001（平成13）年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助手
2005（平成17）年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助教授
2006（平成18）年10月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻助教授
2012（平成24）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2013（平成25）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科教授・大学院情報学研究科環境情報学専攻教授
2015（平成27）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授・大学院情報学研究科環境情報学専攻教授
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻教授
2018（平成30）年 4月	公立鳥取環境大学国際交流センター長

Research

■取得学位　京都大学博士（工学）

■専門分野　都市計画学，都市生活空間計画，人間居住論

■現在の研究テーマ
・持続的な都市居住を可能にする都市空間，市街地の形成・管理手法
・アジア・ヨーロッパの都市型住宅（ショップハウス，タウンハウス）の形成と保全
・都市・まちの「居場所」または「サード・プレイス」について

■受賞歴　1994（平成6）年9月　日本建築学会優秀修士論文賞

■所属学会　日本建築学会，日本都市計画学会，都市住宅学会

Data

■研究等活動

【著書】
・「Planning for a Better Urban Living Environment in Asia」（共著），2000, Ashgate

【論文】
・「伝統的な居住様式に対する災害の被害・外部支援の影響―2018年ロンボク島地震の被災地バヤンを事例として」（共著），2021, 日本建築学会計画系論文集第86巻第790号
・「アジア都市のショップハウスに関する研究 その9. マレーシア・イポー市におけるショップハウス市街地」（共著），2020, 日本建築学会大会学術梗概集
・「カフェで運営されるこども食堂の多様な利用」（共著），2020, 日本建築学会中国支部研究報告集第43巻
・「鳥取市の介護予防に向けた取り組み「O（オー）教室」の実態把握」（共著），2019, 日本建築学会中国支部研究報告集第42巻
・「倉吉市白壁土蔵群周辺における「萌えおこし」によるまちづくり」（共著），2017, 日本建築学会中国支部研究報告集第40巻
・「鳥取市中心市街地における街路の空間特性に関する研究」（共著），2017, 日本建築学会中国支部研究報告集第40巻
・「行動観察調査からみたカフェの居方―携帯電話使用・机の種類の影響―」（共著），2017, 日本建築学会中国支部研究報告集第40巻
・「マラッカ・ジョージタウン世界遺産管理の課題―ボトムアップ保存手法構築の視点から―」，2013, 日本建築学会中国支部研究報告集第36巻
・「旧東京市営店舗向住宅の持続的利用に関する調査研究」（共著），2011, 日本建築学会中国支部研究報告集第34巻
・「アジア都市のショップハウスに関する研究 その8.マレーシア・ジョージタウンにおける家賃統制令撤廃前後の統制家屋の維持管理の実態」，2001, 日本建築学会大会学術講演梗概集F
・「シンガポールにおける歴史的ショップハウス市街地の『政府主導・民間提案型』都市保存の制度」（共著），2001, 日本建築学会計画系論文集
・「マレーシア・クアラルンプールにおけるショップハウスの空間構成とその利用実態」（共著），1999, 日本建築学会計画系論文集
・「マレーシアにおけるショップハウスの供給」（共著），1998, 日本建築学会計画系論文集

【総説】
・「都市と建築の秩序」，2011, 日本建築学会建築雑誌, Vol.126, No.1618

【報告書】
・「鳥取県の文化芸術活動実態調査報告書」（共著），2017, 鳥取県文化団体連合会
・「西スマトラ州パダン歴史地区の再生に関するワークショップ」報告書（共著），2016, 東京文化財研究所
・「台北における歴史的建造物の活用：ショップハウスを中心に」，2014,『遺跡学研究』第11号, 日本遺跡学会
・「「パブリック」で考える歴史的市街地空間と人間の係わり方―世界遺産マラッカとジョージタウンの比較から―」，『パブリックな存在としての遺跡・遺産, 平成24年度　遺跡等マネジメント研究集会（第2回）報告書』，2013, 奈良文化財研究所
・「鳥取市における市営住宅居住者のまちなか居住ニーズ」，2007, 鳥取市まちなかまちづくり市民活動促進事業報告書

■社会貢献活動

・鳥取県景観アドバイザー　・新温泉町空屋等対策協議会
・公益財団法人鳥取童謡・おもちゃ館理事

研究キーワード
耐震性能，伝統技能，伝統的構法，木造建築，防災

中治 弘行　教授

NAKAJI, Hiroyuki

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

URL http://d4407.kankyo-u.ac.jp/　E-Mail nakaji@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　環境物理学, 木質構造計画, 自然素材と環境, 物理学実験

■研究者略歴

1994（平成 6）年 3月	京都大学工学部建築学科卒業
1996（平成 8）年 3月	京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了
1999（平成11）年 3月	京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻博士後期課程単位認定退学
1999（平成11）年 4月	豊橋技術科学大学工学部建設工学系助手（～2005年3月）
1999（平成11）年 7月	京都大学博士（工学）
2005（平成17）年 4月	高松工業高等専門学校建設環境工学科講師（～2006年9月）
2006（平成18）年10月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助教授
2007（平成19）年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2012（平成24）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2015（平成27）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授，大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授，大学院環境経営研究科環境学専攻教授

Research

■取得学位　京都大学博士（工学）

■専門分野　木造住宅の耐震性能評価

■現在の研究テーマ
・土塗り壁の耐震性能に関する研究
・伝統的構法木造住宅の耐震性能向上に関する研究
・木造建物と地震災害・防災

■所属学会　日本建築学会

■資格　危険物取扱乙4類，床上操作式クレーン技能講習修了証，玉掛け技能講習修了証

Data

■研究等活動

【学位論文】
・「木造建物の耐震性能評価に関する研究」(登録番号　課程工博第1860号　京都大学)

【著書】
・伝統的構法のための木造耐震設計法: 石場建てを含む木造建築物の耐震設計・耐震補強マニュアル，伝統的構法木造建築物設計マニュアル編集委員会，2019，学芸出版社
・高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル，高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル作成検討委員会，2014.
・「東三河伝統民家耐震調査実験報告書」(共著，2005年3月)
・「1995年兵庫県南部地震－木造建物の被害－」(共著，1995年9月)

【論文】
・CLT材による木造床の面内せん断加力実験．共著(筆頭). 日本建築学会大会学術講演梗概集，2020.
・土塗り大壁真壁併用壁の復元力特性に関する研究. 共著. 日本建築学会中国支部研究報告集第43巻，2020.
・束で分割された土塗り垂れ壁付大断面木造軸組の耐震性能評価実験. 共著(筆頭). 歴史都市防災論文集 Vol.12，pp.91-98，2019.
・土塗り壁の耐力を用いた土塗り小壁の骨格曲線の再評価. 共著. 歴史都市防災論文集 Vol.12，pp.209 - 214，2019.
・土塗り小壁付大断面木造軸組の耐震性能評価実験. 共著(筆頭). 日本建築学会中国支部研究報告集第42巻，2019.
・高さの異なる土塗り小壁付木造軸組の実大実験. 共著. 日本建築学会中国支部研究報告集第42巻，2019.
・垂れ壁と腰壁で分割された無開口土塗り壁の復元力特性. 共著(筆頭). 歴史都市防災論文集 Vol.12，pp.23-30，2018.
・土塗り壁の耐力を用いた土塗り小壁の骨格曲線評価. 共著. 歴史都市防災論文集 Vol.12，pp.15-22，2018.
・伝統的な土塗り壁の復元力特性に関する実験的研究. 共著. 日本建築学会中国支部研究報告集第41巻. 2018.
・土塗り壁の復元力特性に関する実大実験と理論的検討 その1全面壁と垂れ壁腰壁の実大実験. 共著(筆頭). 日本建築学会大会学術講演梗概集，2018
・土塗り壁の復元力特性に関する実大実験と理論的検討 その2 設計用復元力との比較. 共著. 日本建築学会大会学術講演梗概集，2018
・実大実験に基づく土塗り小壁付木造軸組の復元力特性(共著). 歴史都市防災論文集Vol.11，pp.103-110，2017.
・伝統構法木造軸組における土塗り小壁の復元力評価法(共著). 歴史都市防災論文集Vol.11，pp.95-102，2017.
・Influence of Penetrating Tie Beams Visible from the Front of Wall on Restoring Force Characteristics of Mud-Walls(共著)，14th World Conference on Timber Engineering，2016年8月
・「顕しの貫がある土壁の復元力特性」(共著)，第9回歴史都市防災シンポジウム，2015年7月
・「EVALUATION OF RESTORING FORCE CHARACTERISTICS OF MUD-WALLS CONSIDERING EFFECT OF WALL-HEIGHT FOR SEISMIC STRUCTURAL DESIGN」(共著)，13th World Conference on Timber Engineering，2014年8月
・「SEISMIC PERFORMANCE OF MUD-WALLS WITH SILL BASED ON FULL-SCALE CYCLIC LOADING TESTS」(共著)，12th World Conference on Timber Engineering 2012．2012年7月
・「異なる強度を持つ壁土を用いた土壁耐力の推定」(共著)，日本建築学会構造系論文集第76巻第660号，pp.347-352，2011年2月
・「鳥取県の工法による土塗り壁を有する木造軸組架構の耐力特性評価」(共著)，第13回日本地震工学シンポジウム論文集，2010年11月
・「SEISMIC CAPACITY EVALUATION OF MUD-PLASTERED WALLS CONSIDERING STRENGTH OF MUD」(共　著)，WCTE 2010 - 11th World Conference on Timber Engineering，(2010)
・「壁土材料試験体の定温乾燥機による乾燥」(共著)，日本建築学会大会梗概集，A-1 分冊，pp.459-460，2009 年
・「鳥取県中部地方の工法による土塗り壁の実大せん断加力実験」(共著)，日本建築学会大会梗概集，C-1 分冊，pp.257-258，2009年
・「Seismic Performance Veri cation of Traditional Wooden House Based on Cyclic Loading Tests and Analytical Methods」(共著)，WCTE 2008 - 10th World Conference on Timber Engineering，(2008)
・「東三河伝統構法民家の耐震性能評価のための静的繰り返し加力実験」(共著)，日本建築学会構造系論文集，P133～P140，2007年2月
・「The Scale Effects on the Reinforced Concrete Columns with High Strength Materials」(共著)，Proceedings of The US-Japan Joint Seminar on Performance-Based Seismic Design，2001，P297～P308，2001年8月
・「木造住宅土塗り壁の実大実験による耐震性能の再検討」(共著)，日本建築学会構造系論文集　No. 515，P115～P122，1999年1月

■社会貢献活動

・日本建築学会近畿支部木造部会幹事(2016年4月～2019年3月)
・日本建築学会近畿支部木造部会主査(2012年4月～2016年3月)
・鳥取県湯梨浜町松崎地区町営住宅建替事業民間事業者選定委員会委員(2021年3月～)
・旧加悦町役場庁舎耐震改修検討委員会(2018年4月～2019年3月)
・高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル作成検討委員会委員(2013年4月～2014年3月)
・「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験」検討委員会委員(2010年4月～2013年3月)
・重要文化財松江城天守保存活用計画策定委員会委員(2012年3月22日～2014年3月21日)
・鳥取環境大学公開講座(2013年度，2011年度ほか)

研究キーワード
廃棄物系バイオマス, 海面埋立地の早期安定化, リスクコミュニケーション, 生分解性プラスチック、炭酸化処理

金　相烈

教授

KIM, SangYul

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail sykim@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　3R工学, 廃棄物処理技術, 応用化学概論

■研究者略歴

1998（平成10）年 2月	ソウル市立大学工学部環境工学科卒業
2000（平成12）年 9月	北海道大学大学院工学研究科資源環境工学専攻修士課程修了
2003（平成15）年 9月	北海道大学大学院工学研究科資源環境工学専攻博士後期課程修了
2003（平成15）年10月	北海道大学大学院工学研究科COE研究員
2004（平成16）年 4月	オーストリアウィン工科大学客員研究員
2005（平成17）年 4月	北海道大学大学院工学研究科学術研究員
2006（平成18）年 4月	北海道大学大学院工学研究科博士研究員
2006（平成18）年10月	北海道大学大学院工学研究科特任助教
2013（平成25）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2015（平成27）年 4月～	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授
2021（令和３）年10月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科/大学院環境経営研究科環境学専攻教授

Research

■取得学位　博士（工学）（北海道大学）

■専門分野　廃棄物工学

■現在の研究テーマ
・廃棄物系バイオマスの利活用に関する研究
・焼却残さの炭酸化処理による二酸化炭素の削減に関する研究
・廃棄物処理施設における合意形成（リスクコミュニケーション）に関する研究
・しいたけ形成菌のフタ材として生分解性プラスチックの開発
・海面埋立地の早期安定化に関する研究

■所属学会　日本廃棄物資源循環学会, 韓国廃棄物資源循環学会

Data

■研究等活動

【著書】
・「環境汚染現場の修復　～実務者のための新しいアプローチ～」（分担執筆）, 2013年, オーム社
・「バイオマス地域循環　－再生可能エネルギーのあるべき姿－」（分担執筆）, 2012年, 環境新聞社
・「不法投棄のない循環型社会づくり　－不法投棄対策のアーカイブス化－」（分担執筆）, 2009年, 環境新聞社

【論文】
・「コンジョイント分析に基づいた牛ふんスラリーの適正処理と資源化のための酪農家のニーズ解析:北海道道東地域を対象として」（共著）, 2013年, 土木学会論文集G　69巻
・「3次元数値シミュレーションによる修復対策後の地下水流動変化に基づく1,4-ジオキサンの拡散予測　－青森・岩手県境不法投棄事案の恒久対策を目指して－」（共著）, 2012年, 土木学会論文集G　68巻
・「Compartment model of aerobic and anaerobic biodegradation in a municipal solid waste landfill」（共著）, 2007年, Waste Management & Research　第25巻

【国際会議】
・「Effect of carbonation treatment of incinerator ash on the stabilization of offshore landfill」（共著）, 2018年, The 10th Asia-Pacific Landfill Symposium in 2018 (APLAS2018), Tokyo, Japan
・「Promoting the use of a liquid fertilizer produced from municipal waste biomass in the eastern region of Tottori Prefecture based on an oral survey of liquid fertilizer users」（共著）, 2016年, The 9th Asia-Pacific Landfill Symposium in 2016 (APLAS2016), HongKong
・「The evaluation of a liquid fertilizer recycling system in the Eastern region of Tottori Prefecture using Input-Output Analysis」（共著）, 2015年, 3R International Scientific Conference on Material Cycles and Waste Management, DaeJeon, Korea
・「Development of Actual Tracking Method for Prediction of Drift Routes of Marine Debris Generated from Tsunami」(共著), 2014年, 3R International Scientific Conference on Material Cycles and Waste Management and SWAPI, Kyoto, Japan
・「A Study on Potential Improvement of Waste Manifest Systems For Establishing a Recycling-Based Society」（共著）, 2013年, Proceedings of 2013 World Congress of International Solid Waste Association (ISWA),Vienna, Austria
・「A Comparative Study of Industrial Waste Manifest Systems in Japan and Korea for the Promotion of Proper Recycling」（共著）, 2012年, Proceedings of 2012 World Congress of International Solid Waste Association (ISWA), Florence, Italy
・「A New Concept of Final Disposal Systems for MSW management Considering Storage of Recyclable Materials and Disaster Waste」,（共著）, 2012年, The Proceedings of 7th Asian-Pacific Landfill Symposium, Bali, Indonesia

【報告書】
・「焼却排ガスの活用による都市ごみ焼却残渣の炭酸化処理による温室効果ガス削減及び海面埋立処分場の安定化促進に関する研究」(単独), 2018年2月, 廃棄物の適正処理・水処理に係る調査研究助成, 大阪湾広域臨海環境整備センター
・「産業廃棄物不適正処理事案における環境修復の取組から得られたもの」～四日市市大谷知・平津事案のリスクコミュニケーションを通じて～（共著）, 2016年3月, 三重県環境生活部廃棄物対策局
・「東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究」（共著）, 2013年～ 2014年, 環境研究総合推進費, 環境省
・「産業廃棄物マニフェスト情報の信頼性の確保と多面的活用策の検討」（共著）, 2011年～ 2014年, 環境研究総合推進費, 環境省
・「バイオマスの利活用を基軸とした地域循環圏のモデル化と普及方策に関する研究」（共著）, 2010年～ 2013年, 環境研究総合推進費, 環境省
・「不適正な最終処分システムの環境再生のための社会・技術システムの開発」（共著）, 2007年～ 2010年, 廃棄物処理等科学研究, 環境省
・「三重県の環境修復技術システムの今後のあり方に関する研究」（共著）, 2009年～ 2011年, 三重県研究委託

■社会貢献活動

・鳥取県表彰・認定等審査会（鳥取県グリーン商品認定審査会）　委員, 2022年1月～ 2024年1月
・鳥取県衛生環境研究所調査研究外部評価委員会　委員, 2020年9月～ 2023年9月
・鳥取県東部広域行政管理組合　廃棄物等審議会 委員, 2019年8月～
・公益財団鳥取県環境管理事業センター　平議員, 2017年6月～
・鳥取県東部広域行政管理組合　指定管理者選考委員会　委員, 2017年5月～
・八東川クリーンアップ大作戦実行委員会　委員, 2015年～
・三重県四日市市大矢知・平津事案に関する三者協議（学識経験者）（2011年3月より四者協議に変更）, 2008年～

研究キーワード
心理教育，異文化，サブカルチャー

藤田恵津子　准教授

FUJITA, Etsuko

所属…環境学部 環境学科

Profile

■主な担当科目　教育心理学，特別支援教育の理論と実践，生徒･進路指導論

■研究者略歴

2002（平成14）年 3月	京都教育大学大学院教育研究科学校教育専修教育臨床心理学分野修了（教育学修士）
2002（平成14）年 4月	京都教育大学附属桃山中学校帰国生徒学級相談室　相談員（～2011年）
2004（平成16）年 4月	大阪府・市公立学校　スクールカウンセラー（～2012年）
2004（平成16）年 4月	滋賀県警察本部生活安全部少年課大津少年サポートセンター　少年相談専門員（～2012年）
2005（平成17）年 4月	大阪府私立幼稚園連盟キンダーカウンセラー（～現在）
2007（平成19）年 4月	神戸親和女子大学教育専攻科非常勤講師（～2012年）
2007（平成19）年 4月	京都教育大学教育学部非常勤講師（～2012年）
2012（平成24）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2013（平成25）年10月	鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2015（平成27）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授

Research

■取得学位　教育学修士（京都教育大学）

■専門分野　臨床心理学，教育心理学，発達心理学

■現在の研究テーマ
・心理教育（怒りのマネージメント，ストレス・マネージメント）
個別カウンセリングに加え，日常生活に必要な心理的知識やコミュニケーション・スキルは心の健康のために有益なことである。
・心理臨床とサブカルチャー
「思春期の成長」,「大人のセルフケア」としての役割をもつサブカルチャーを心理臨床的視点から考える。
・異文化適応
定移住による多様な文化背景をもつ子どもが増加しており，学習や対人関係，アイデンティティ，適応など課題も複雑化している。心理職は文化の多様性を理解した上で，彼らのより良い発達や環境にかかわっていくことが求められている。

■所属学会　日本心理臨床学会，日本教育心理学会

■資格　公認心理師，臨床心理士

Data

■研究等活動

【著書】
・「学校カウンセリング入門」（共著），2016年9月，ミネルヴァ書房
・「はじめて学ぶ生徒指導・教育相談」（共著），2016年4月，金子書房

【論文】
・「『島のお墓に入りたい』と訴える女性との面接過程」，2021年3月，京都教育大学心理教育相談室紀要第18号
・「一卵性双生児の母親面接」，2020年3月，京都教育大学心理教育相談室紀要第17号
・「自分の人生を振り返る高齢女性の面接過程」，2019年3月，京都教育大学心理教育相談室紀要第16号
・「自分のキャリアを模索する青年期女性の面接過程」，2018年3月，京都教育大学心理教育相談室紀要第15号
・「摂食障害を抱える母親の面接過程」，2017年3月，京都教育大学心理教育相談室紀要第14号
・「明確な主訴を持たない母親の面接過程」，2016年3月，京都教育大学心理教育相談室紀要第13号
・「性的アイデンティティの課題を抱える中学生の面接過程」，2014年3月，京都教育大学心理教育相談室紀要第11号
・「幼稚園児の母親を対象とするグループカウンセリングの取り組み」，2013年3月，鳥取環境大学紀要第10号
・「境界を生きるということ－国際結婚をしたある日本人女性のケースを通して」，2013年3月，京都教育大学心理教育相談室紀要第10号

■社会貢献活動

・鳥取県青少年問題協議会委員
・大阪府私立幼稚園連盟キンダーカウンセラー
・八頭町公立中学校保護者講演会講師
・大阪府守口市教育委員会教育専門相談員
・大阪府臨床心理士会「こころの健康電話相談」相談員
・大阪弁護士会「こどもの日無料電話相談」相談員

研究キーワード
花, 昆虫, 送粉

笠木 哲也

准教授

KASAGI, Tetsuya

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail kasagi-t@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　植物学概論, 生態学基礎, 生態学概論：以下分担で自然環境保全概論, 鳥取学, 生物学実験, 自然環境保全実習･演習A及びB

■研究者略歴

1992（平成 4）年 3月	宇都宮大学農学部卒業
1992（平成 4）年 4月	(株)カーター・アート環境計画 (現 (株)環境・グリーンエンジニア)
1997（平成 9）年 3月	北海道大学大学院地球環境科学研究科博士前期課程修了
2002（平成14）年 9月	北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程修了
2004（平成16）年10月	金沢大学地域連携推進センター研究員（～2015年3月)
2006（平成18）年 4月	金沢大学環日本海域研究センター研究員（～2016年3月)
2007（平成19）年 4月	石川県立総合看護専門学校非常勤講師（～2014年9月)
2013（平成25）年10月	石川工業高等専門学校非常勤講師（～2015年3月)
2015（平成27）年 4月	遊学館高等学校講師（～2016年3月)
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部准教授
2016（平成28）年 6月	公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■取得学位　博士（地球環境科学／北海道大学）

■専門分野　植物生態学，送粉生態学，ハナバチ類

■現在の研究テーマ
・植物の繁殖特性と送粉昆虫の行動の関係
・ハナバチ類の分布と送粉ネットワーク構造

■所属学会　日本生態学会，種生物学会，日本森林科学会

Data

■研究等活動

【論文】
・Variation in flowering plant - bee linkages following experimental restoration of satoyama paddy fields. International Proceedings of Chemical, Biological and Environmental Engineering, 2017. 102 (共著)
・外来植物が在来植物とハナバチ類の関係に及ぼす影響. 日本海域研究, 2015. 46: 43-48 (共著)
・加賀地域の標高経度に沿ったハナバチ相の比較. 2013. 日本海域研究, 44: 1-9 (共著)
・能登半島と佐渡島におけるハナバチ類の種組成と分布. 2012. 日本海域研究, 43: 9-17 (共著)
・Habitat-species responses of alpine plants to climate amelioration: comparison of fellfields and snowbed communities. Arctic, Antarctic and Alpine Research, 2011. 42: 438-448 (共著)
・A hybrid zone dominated by fertile F1s of two alpine shrub species, Phyllodoce caerulea and Phyllodoce aleutica, along asnowmelt gradient. Journal of Evolutionary Biology, 2008. 21: 588-597 (共著)
・Eight microsatellite markers for sympatric alpine shrubs, Phyllodoce aleutica and P. caerulea (Ericaceae). Molecular Ecology Notes, 2006. 6: 402-404 (共著)
・Interspecific pollinator movements and heterospcific incompatibility: comparisons between Phyllodoce caerulea and Phyllodoce aleutica along snowmelt gradients. Evolutionary Ecology Research, 2005. 7: 73-87 (共著)
・Variations in bumblebee preference and pollen limitation among neighboring populations: comparisons between Phyllodoce caerulea and Phyllodoce aleutica (Ericaceae) along snowmelt gradients. American Journal of Botany, 2003. 90: 1321-1327 (共著)

【研究発表】
・ウコギ科カクレミノにおけるシュート構造と葉形質の光環境への応答. 2019. 日本生態学会，第66回大会（共同）
・鳥取県東部瀬戸川におけるバイカモのパッチ動態と開花結実状況. 2019. 日本生態学会，第66回大会（共同）
・鳥取県東部地域のコナラ二次林における中低木層の種子散布：自然落下と鳥散布. 2018. 日本生態学会中国四国地区会，生物系三学会合同大会（共同）
・ウコギ科カクレミノにおける個葉形質の変異と光環境の関係. 2018. 日本生態学会，第65回大会 (共同)
・ニホンジカの生息密度と植生被害タイプの関係. 2018. 日本生態学会，第65回大会 (共同)
・鳥取県東部地域におけるナラ枯れ後の落葉樹の分布パターン. 2017. 日本森林学会，第128回大会 (共同)
・ツリフネソウにおける訪花昆虫相の違いと送粉成功の関係. 2014. 日本生態学会，第61回大会 (共同)
・Comparison of flowering plant-bee linkages between two types of satoyama habitats in Kanazawa, Japan. 2013. Entomological Society of America, Entomology 2013 in Austin (共同)
・農地生態系において外来植物の開花が在来ハナバチ相に及ぼす影響. 2011. 応用動物昆虫学会，第55回大会 (共同)
・植物群集の開花フェノロジーとハナバチ相の関係に対する外来植物の影響. 2011. 日本生態学会，第58回大会 (共同)
・Biodiversity and ecosystem in Noto Peninsula: perspectives from satoyama and satoumi. 2010. The 4th International Symposium on Environment of Rim of the Japan/East sea (単独)

■社会貢献活動

・鳥取市環境審議会／委員 (2016～)
・鳥取県環境審議会／委員（2019～2022）
・日本生態学会中国四国地区会／会計幹事（2018～2022）
・白山自然保護調査研究会／幹事 (2015～2017)

研究キーワード
廃棄物, リサイクル, 重金属, レアメタル, 環境分析

門木 秀幸

准教授

MONGI, Hideyuki

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

■主な担当科目　廃棄物マネジメント学, 廃棄物学入門

■研究者略歴

1995（平成 7）年 3月	信州大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了
1997（平成 9）年 4月	鳥取県倉吉保健所（～平成11年6月）
1999（平成11）年 7月	鳥取県廃棄物対策課（～平成14年3月）
2002（平成14）年 4月	鳥取県衛生研究所（現鳥取県衛生環境研究所）研究員
2008（平成20）年 3月	鳥取大学大学院工学研究科社会開発工学専攻博士後期課程修了
2008（平成20）年 4月	鳥取県衛生環境研究所環境化学室研究主任
2010（平成22）年 4月	鳥取県衛生環境研究所リサイクルチームチーム長
2018（平成30）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2018（平成30）年 7月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻講師
2020（令和 2）年10月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科/大学院環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■取得学位　博士（工学，鳥取大学）

■専門分野　環境分析，廃棄物・リサイクル工学

■現在の研究テーマ
・廃棄物，リサイクル製品の分析及び安全性に関する研究
・レアメタル等の再資源化技術に関する研究
・廃棄物に含まれる有害物質管理に関する研究

■受賞歴
2009年（平成21年）8月　全国環境研協議会中国・四国支部長表彰
2010年（平成22年）2月　全国環境研協議会会長表彰
2016年（平成28年）5月　廃棄物資源循環学会有功賞

■所属学会　廃棄物資源循環学会，資源・素材学会，日本分析化学会，日本環境化学会

■資格　二級知的財産管理技能士（管理業務）

Data

■研究等活動

【著書】
・「廃棄物関連試料の分析マニュアル」，2015年5月，一般社団法人廃棄物資源循環学会（共著）
【論文】
・「焼却灰溶出液中の六価クロムの定量における水酸化鉄(Ⅲ) 共沈時のpHの影響」(共著), 2022年, 分析化学, Vol.71, No.12, pp.679-685
・「Determination of lead by stripping voltammetry with a disposable cartridge for quality control of municipal solid waste molten slag」（共著）、2011年、Michrochemical Journal, Vol.97, pp.220-224
【技術報文】
・「産業廃棄物に含まれる六価クロムの検定方法の改正と留意点」（単著），2020年，環境と測定技術，Vol.47，No.4，pp.3-6
【特許】
・「廃電子基板からの金属の回収方法」(共同発明)，特許 2014-046258
・「ガラスからの重金属類の分離方法」(共同発明)，特許 2013-557511
・「ガラスからの重金属の分離方法」(共同発明)，特許 2012-248553
・「フッ素除去剤, フッ素含有液の処理方法」(共同発明)，特許 2012-023795
・「リン酸イオン吸着剤の製造方法, リン酸イオン回収方法, リン酸肥料の製造方法, リン酸イオン吸着剤」(共同発明)，特許 2010-028938

■社会貢献活動

・産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法改正検討委員会委員
・廃棄物資源循環学会中国四国支部理事
・廃棄物資源循環学会試験・検査法研究部会幹事
・鳥取県西部広域行政管理組合一般廃棄物処理施設用地選定委員会委員

研究キーワード
緑地環境, グリーンインフラ, 社会・生態・テクノロジー系, レジリエンス, 気候変動

加藤 禎久

准教授

KATO, Sadahisa

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

https://researchmap.jp/sada_kato

Profile

■主な担当科目　グリーンデザイン, 都市の自然環境形成, 景観計画と保全管理

■研究者略歴

1996（平成 8）年 5月	米国ミシガン大学自然資源・環境学部卒業
2003（平成15）年 4月	米国ミシガン大学大学院自然資源・環境学部実務家養成修士課程修了，MLA
2010（平成22）年 5月	米国マサチューセッツ大学大学院景観建築・地域計画学科博士課程修了，Ph.D.
2011（平成23）年 9月	茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）共同研究員，IPCCチャプターサイエンティスト
2014（平成26）年 3月	国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）リサーチ・アソシエート
2015（平成27）年 3月	茨城大学国際戦略室国際コーディネーター
2016（平成28）年 4月	岡山大学グローバル人材育成院准教授
2021（令和 3）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部准教授
2021（令和 3）年10月	公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■取得学位　Ph.D.（Ecological Planning）（University of Massachusetts Amherst, USA）

■専門分野　緑地計画学，エコロジカル・プランニング，グリーンインフラ

■現在の研究テーマ
・自然の恵みを土地利用計画や社会資本整備に活用するグリーンインフラに関する研究
・インドネシア・バリ島における伝統的緑地の統合的機能評価に関する研究
・人流データのAI解析に基づく住民の健康増進に資するまちづくり提案

■受賞歴
2003年（平成15）年5月　Landscape Architecture Alumni Award（米国ミシガン大学大学院自然資源・環境学部）
2003年（平成15）年8月　最優秀賞（大学院共同研究部門）（米国ランドスケープアーキテクト協会）
2006年（平成18）年4月　プロフェッショナル・エンハンスメントアワード（NASA-MSU）

■所属学会　国際景観生態学会（IALE），日本造園学会，日本景観生態学会，日本都市計画学会，日本建築学会

■資格　英検１級

Data

■研究等活動

【著書】
・「Changes in the Use of Green Spaces by Citizens Before and During the First COVID-19 Pandemic: A Big Data Analysis Using Mobile-Tracking GPS Data in Kanazawa, Japan」（共著），2022年,『Green Infrastructure and Climate Change Adaptation』, Springer
・「Green Infrastructure Planning for Asian Cities: The Planning Strategies, Guidelines, and Recommendations」, 2021年,『Urban Biodiversity and Ecological Design for Sustainable Cities』, Springer
・「決定版！グリーンインフラ」（共編著），2017年, 日経BP社
・「ポスト震災社会のサステイナビリティ学：地域と大学の新たな協働をめざして」（共編著），2014年, 国際文献社

【論文】
・「Human Flow Dataset Reveals Changes in Citizens' Outing Behaviors including Greenspace Visits before and during the First Wave of the COVID-19 Pandemic in Kanazawa, Japan」（共著），2022年,『International Journal of Environmental Research and Public Health』19（14）:8728、DOI: 10.3390/ijerph19148728
・「人流ビッグデータで見たCOVID-19流行後のグリーンインフラや観光地利用の変化」（共著），2022年,『ランドスケープ研究』85（5），585-588
・「Land use management recommendations for reducing the risk of downstream flooding based on a land use change analysis and the concept of ecosystem-based disaster risk reduction」（共著），2021年,『Journal of Environmental Management』, DOI: 10.1016/j.jenvman.2021.112341
・「ニューヨーク市BIG-Uプロジェクトにみる減災デザイン実装展開の枠組み」（共著），2021年,『ランドスケープ研究』84（5），587-590
・「バリ島の伝統的緑地「テラジャカン」についての研究―公共性と「かかわりの正当性」―」（共著），2021年,『住総研 研究論文集・実践研究報告集』第47号, 131-141
・「フィラデルフィア市におけるグリーンインフラ計画と実装の仕組みに関する研究」（共著），2020年,『ランドスケープ研究』83（5），673-678
・「地域開発における伝統的緑地（テラジャカン）の役割：バリ島プンリプラン観光村の事例」（共著），2020年,『専修人間科学論集. 社会学篇』第10号, 35-42
・「Functional Analysis of Telajakan Plants and Space in Northern Denpasar, Bali, Indonesia」（共著），2019年,『Open Journal of Ecology』9（2），15-24
・「ポートランド市のグリーンインフラ適用策事例から学ぶ日本での適用策整備に向けた課題」（共著），2015年,『ランドスケープ研究』78（5），777-782

【報告書】
・「空き地のグリーンインフラ再利用を軸に敷地と都市スケールの取り組みを連動させるには―アメリカ・デトロイト市の事例から―」（共著），2019年, 都市計画報告集（日本都市計画学会），18, 112-116
・「シンガポールABC水のデザインガイドライン におけるグリーンインフラ適用策の推進手法」（共著），2019年, 都市計画報告集（日本都市計画学会），17, 423-429

■社会貢献活動

・鳥取県景観審議会　委員（2022年1月～）
・岡山市岡山西部総合公園（仮称）活用準備会　副会長（2019年3月～2021年3月）
・「グリーンインフラで災害に強く緑豊かな街づくり」公立鳥取環境大学公開講座2022（2022年12月17日）
・「グリーンインフラ要素の導入提案（まちづくり有志の会による思考実験の発表の一部）」くらしのたねまき市民フォーラム（2020年2月7日）

研究キーワード
水産資源, 魚類の初期生態

太田 太郎

准教授

OHTA, Taro

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail oota-t@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　鳥取学, 麒麟の知, 漁業資源保全学, 水域生態学

■研究者略歴

1997（平成 9）年 3月	京都大学農学部水産学科卒業
1999（平成11）年 3月	京都大学大学院農学研究科修士課程応用生物科学専攻修了
1999（平成11）年 4月	京都大学大学院農学研究科博士後期課程応用生物科学専攻進学 日本学術振興会特別研究員（DC 1）採用
2002（平成14）年 3月	京都大学大学院農学研究科博士後期課程応用生物科学専攻研究指導認定
2002（平成14）年 4月～ 2016（平成28）年 3月	鳥取県職員に採用　所属：農林水産部水産振興局水産課　鳥取県栽培漁業センター 鳥取県水産試験場　など
2004（平成16）年 3月	京都大学大学院農学研究課応用生物化学専攻博士課程修了（農学博士）
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター特命准教授
2019（平成31）年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2020（令和 2）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授　兼　環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■取得学位　博士（農学）（京都大学）
■専門分野　魚類生態学，水産資源生物学，漁業制度及び漁業法令
■現在の研究テーマ　・水産生物の資源生態　・鳥取県における漁業制度
■所属学会　日本水産学会　ほか
■資格　潜水士，日本さかな検定１級

Data

■研究等活動

【著書】
・「有明海のスズキの初期生態を探る」,稚魚学－多様な生理生態を探る（共著）, 株式会社生物学研究者, 東京, 2008, pp. 277-286
・「耳石による回遊履歴追跡」, スズキと生物多様性（共著）, 恒星社厚生閣, 東京, 2002, pp. 91-102.

【論文】
・鳥取県千代川水系におけるカジカ種群の分布域と回遊,（共著）水産学会誌;2023（印刷中）
・鳥取県沿岸海域で採集したアユ仔稚魚の耳石日周輪解析による孵化日と初期成長の推定.（共著）水産増殖　2022: 70: 343-352.
・湖山池沿岸部におけるテナガエビの出現動向、（共著）鳥取県立博物館研究報告 2022: 59 1-8
・鳥取砂丘海岸におけるペットボトルを指標とした海岸漂着ごみの挙動に関する気象，海象要因の解析　（共著）公立鳥取環境大学紀要 2021; PR1-PR8.
・鳥取市における漁業振興にかかる諸課題の抽出. (単著)公立鳥取環境大学紀要 2019; 16 RE31-35.
・水産物に関する消費者アンケート調査について. (単著)公立鳥取環境大学紀要 2019;　16 RE37-43.
・Numerical simulation of the migration and distribution of diamond squid (Thysanoteuthis rhombus) in the southwest Sea of Japan.（共著）Fisheries Oceanography 2009; 19: 63-75.
・Tagging studies on the diamond squid (Thysanoteuthis rhombus) in the western Sea of Japan.（共著）Bulletin of the Japanese Society of Fisheries Oceanography　2008; 72: 30-36 .
・Migration of Japanese temperate bass Lateolabrax japonicus juveniles within the Chikugo River estuary revealed by δ 13C analysis.（共著）Marine Ecology Progress series 2008; 358: 245-256.
・Distribution of Japanese temperate bass, Lateolabrax japonicus, eggs and pelagic larvae in Ariake Bay.（共著）Ichthyological Research 2007; 54: 367-373.
・稚魚期を有明海湾奥部河口域で過ごしたスズキの成長.（単著）海洋と生物 2007; 29: 33-39.
・Effects of river flow on larval growth and survival of Japanese seaperch Lateolabrax japonicus (Pisces) in the Chikugo River estuary, upper Ariake Bay.（共著）Journal of Fish Biology 2006; 69: 1662-1674.
・Environmental effect on diet, fecundity and condition of an endangered fish Neosalanx reganius (Osmeriformes) in the Chikugo Estuary, in the upper Ariake Bay, Japan. Aquat. Living Resour. 2006; 19: 59-68.
・Diel and tidal changes in the distribution and feeding habits of Japanese temperate bass Lateolabrax japonicus juveniles in the surf zone of Ariake Bay.（共著）Ichthyological Research 2006; 53: 129-136.
・Age, growth and hatching season of the diamond squid Thysanoteuthis rhombus estimated from statolith analysis and catch data in the western Sea of Japan.（共著）Fisheries Research 2006; 80: 211-220.
・Laboratory Observations On the early life stages of the diamond squid Thysanoteuthis rhombus.（共著）Journal of Molluscan Studies 2006; 72: 199-205.
・Catch fluctuations of the diamond squid Thysanoteuthis rhombus in the Sea of Japan and models to forecast CPUE based on analysis of environmental factors.（共著）Fisheries Research　2005; 72:　71-79.
・有明海湾奥部の干潟汀線域に出現する仔稚魚.（共著）魚類学雑誌　2002; 49: 109-120.
・筑後川河口で採集されたアリアケシラウオ仔魚の形態.（共著）魚類学雑誌2002; 49 : 103-108.
・Use of otolith microanalysis to determine estuarine migrations of Japanese sea bass Lateolabrax japonicus distributed in Ariake Sea.（共著）Fish. Sci. 1998; 64: 740-743.
・Otolith Sr concentration analyzed by PIXE in Ariake estuary dependent sea bass juveniles.（共著）Int. J. PIXE 1997; 7: 147-151.

【報告書・その他】
・鳥取県東部千代川水系に分布するギギTachysurus nudicepsの生態　地域イノベーション研究 2022: 9:56-61
・鳥取県沿岸域に分布するスズキの資源生物学的基礎情報について. 地域イノベーション研究 2021; 8:34-39
・千代川水系における水生生物の生息環境の地理情報化にむけた取組-調査手法の確立と地理情報化の基本設計について-.　地域イノベーション研究 2021; 8:27-33.
・鳥取県東部大谷海岸における2019年春季から秋季の藻場の現状. 地域イノベーション研究 2020; 7:31-37.
・千代川水系に設置された魚道の流速と水深の調査について. 地域イノベーション研究 2020; 7:38-46.
・多様で豊かな水産資源を育む漁場保全のあり方について～山陰鳥取の海を実例に～ . 第18回全国漁港漁場整備技術研究発表会講演集 Ⅰ - X

■社会貢献活動

・鳥取県漁業協同組合外部アドバイザー (H28 ～)
・鳥取県沖合底曳網漁業協会外部アドバイザー (H28 ～)
・海と日本のプロジェクトin鳥取 実行委員　(H31 ～)
・鳥取県中部地区水産業再生委員会　委員（H30 ～）
・八頭町公共施設のあり方検討委員会　委員長　（H28年度）など

〔講演等〕
・Road to 2030 ～ SDGsで考えるふるさとのミライ～「海の環境を考える」　（中海テレビ）　出演（R3年10月）
・公立鳥取環境大学 公開講座 夏休みの小学生対象講座『チリメンモンスター教室』(R3年7月）ほか
・公立鳥取環境大学市民公開講座「未来に残そう!!魚の豊かな鳥取の海」米子会場(R2年10月）
・第18回全国漁港漁場整備技術研究会「基調講演　多様で豊かな漁場環境保全のあり方について　～山陰鳥取の海を実例に～」（R1年10月）
・日本海テレビ「海と日本のプロジェクトinとっとり」：出演, イベント講師など（H29年度よりR3年度まで　年3 ～ 5回）

〔集中講義〕
非常勤講師：京都大学大学院農学研究科（修士課程）応用生物科学特別講義Ⅶ（R1年6月）

研究キーワード
新規化学物質, 質量分析, ジオミクス

山本 敦史

准教授

YAMAMOTO, Atsushi

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

https://pfos.jp　atyamamo@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　化学概論, 化学実験, 環境化分析化学特論

■研究者略歴

1993（平成 5）年3月	鳥取県立鳥取西高等学校卒業
1997（平成 9）年3月	九州大学理学部化学科卒業
1999（平成11）年3月	九州大学大学院理学研究科化学専攻修了
1999（平成11）年4月	ユニチカ株式会社
2000（平成12）年4月	大阪市立環境科学研究所
2014（平成26）年3月	関西大学大学院理工学研究科博士課程修了，博士（工学）
2016（平成28）年4月	公立鳥取環境大学環境学部講師
2018（平成30）年4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 大学院環境経営研究科 環境学専攻 准教授

Research

■取得学位　博士（工学）（関西大学）

■専門分野　分析化学，質量分析

■現在の研究テーマ
・環境中残留性汚染物質の分析，生体影響評価
・暮らしに身近な化学物質のリスク評価
・食品中の栄養成分等の探索

■受賞歴　2017年（平成29年）5月　奨励賞（日本質量分析学会）

■所属学会　日本環境化学会，アメリカ化学会，日本質量分析学会，日本食品衛生学会

Data

■研究等活動

【報文・総説・解説】(2020 年以降)
・Quantitation of guanidine derivatives as representative persistent and mobile organic compounds in water: Method development. Makiko Ichihara, Atsushi Yamamoto, 他 2 名 Anal Bioanal Chem , 415, 1953-1965 (2023) , doi: 10.1007/s00216-023-04613-x
・Amidoamine Oxide Surfactants as Low Molecular Weight Hydrogelators: Effect of Methylene Chain Length on Aggregate Structure and Rheological Behavior. Rie Kakehashi, Atsushi Yamamoto, 他 4 名 Gels, q, 261 (2023) , doi: 10.3390/gels9030261
・A study of chemical substances migrated from plastic tableware to evaluate the food safety for pets. Yamato Miyazaki, Atsushi Yamamoto. Mass Spectrometry, 12, A0119 (2023) , doi: 10.5702/mass spectrometry, A0119
・Hexabromocyclododecane in Riverine and Estuarine Sediments form Osaka, Japan: Spatial Distribution and Concentration Variability Within Identical Samples. Makiko Ichihara, Atsushi Yamamoto, 他 3 名 Environ Sci Poll Res, 27, 35782-35791 (2020), doi: 10.1007/s11356-020-09856-0
・缶コーヒーの内層コーティングに含まれる成分のノンターゲット分析.
田村 昌之，山本 敦史，日本質量分析学会誌，68 巻 75-80 (2020), doi: 10.5702/massspec.20-105
2019 年以前含めた全体は以下に掲載
https://www.webofscience.com/wos/author/record/C-8211-2012

【学会・研究会】(2020 年以降)
・高度化する環境分析化学データの蓄積と共有
第 30 回環境化学討論会（富山：2022 年）
・同一測定内のデータ整合性にも着目したマススペクトル解析
第 3 回日本質量分析学会スペクトルデータ部会シンポジウム（オンライン：2022 年）
・川の水のマススペクトルを読む
第 21 回質量分析中部談話会（オンライン：2022 年）
・食のみやこ鳥取県へ　地方大学での MS との取組み
第 169 回質量分析関西談話会（オンライン：2021 年）
・Data analysis of non-target environmental monitoring by a universal program, MS-DIAL
第 8 回アジアオセアニア質量分析学会（マカオ：2020 年）
・環境試料にひそむ化学物質を丸裸に！
JASIS コンファレンス WebExpo 2020-2021 日本環境化学会/JAIMA 招待

【教科書】
・質量分析活用スタンダード （羊土社：2023 年）
・機器分析ハンドブック 1 有機・分光分析編（化学同人: 2020 年）

■社会貢献活動

・鳥取県分析技術勉強会世話人
・鳥取県リサイクル技術・製品実用化事業補助金審査会委員長（2018 年）
・鳥取県環境影響評価審査会委員 (2018 年～)
・日本質量分析学会理事 (2019 年～)
・日本質量分析学会講習会企画委員会長 (2019 年～ 2020年)
・日本環境化学会評議員（2019年～）

研究キーワード
下水処理, 嫌気性消化, メタン発酵, 汚泥有効利用, 高度処理

戸苅 丈仁

准教授

TOGARI, Taketo

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

https://mizukankyo-togari.amebaownd.com/　t-togari@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　水質管理学, 水質汚濁防止, 水処理技術

■研究者略歴

2001（平成13）年 3月	金沢大学工学部土木建設工学科　卒業
2003（平成15）年 3月	金沢大学大学院自然科学研究科　博士前期課程　修了
2003（平成15）年 4月	石川県土木部河川課
2005（平成17）年 4月	石川県北河内ダム建設事務所建設課
2007（平成19）年 4月	石川県県央土木総合事務所都市施設課
2010（平成22）年 4月	石川県環境部水環境創造課
2014（平成26）年 4月	石川県南加賀土木総合事務所河川砂防課
2016（平成28）年 3月	金沢大学大学院自然科学研究科環境科学専攻　博士後期課程　修了，博士（工学）
2016（平成28）年 4月	石川県県央土木総合事務所維持管理課
2017（平成29）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部講師
2017（平成29）年 7月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻講師
2019（平成31）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部　准教授
2019（平成31）年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 准教授

Research

■取得学位　博士（工学）（金沢大学）

■専門分野　下水道工学，水処理工学，バイオマス利活用（汚泥処理），水環境保全

■現在の研究テーマ
- 下水汚泥と廃棄物系バイオマスによる混合消化
- 下水汚泥へのマイクロ波照射前処理による嫌気性消化高効率化
- 中小規模市町村における生活排水処理システム評価
- 硝化脱窒による処理水処理場内循環利用システム

■受賞歴　令和元年第56回環境工学研究フォーラム論文賞, 令和3年日本下水道協会優秀論文賞

■所属学会　土木学会，日本水環境学会，日本下水道協会

■資格　技術士（上下水道部門）

Data

■研究等活動

【論文（査読有）】
- 「小規模処理場から発生する余剰汚泥のメタン生成ポテンシャルに及ぼす脱水の影響」（共著），2021年11月，土木学会論文集G（環境）Vol.77(No.7)，Ⅲ359-Ⅲ365
- 「下水汚泥と稲わらの高温混合メタン発酵によるエネルギー回収と残渣の水田への利用可能性」（共著）（筆頭），2020年12月，土木学会論文集G（環境）Vol.76(No.7),Ⅲ481-Ⅲ490
- 「オキシデーションディッチ汚泥と稲わらの高濃度高温混合消化-パイロットプラントによる実証-」（共著），2020年12月，土木学会論文集G（環境）Vol.76(No.7)，Ⅲ471-Ⅲ479
- 「下水汚泥の無加温嫌気性消化の現場維持管理データ分析とその活用について」（共著），2020年3月，下水道協会誌，Vol.57，No.689，pp.66-75
- 「オキシデーションディッチ汚泥の高濃度高温消化に及ぼす稲わらの添加効果」（共著），2019年12月，土木学会論文集G（環境）Vol.75(No.7) Ⅲ451 - Ⅲ459
- 「混合メタン発酵基質としての浄化槽汚泥のエネルギー価値評価」（共著），2019年12月，土木学会論文集G（環境）Vol.74(No.7) Ⅲ135 - Ⅲ143
- 「下水汚泥と稲わらの混合メタン発酵による地域内資源循環システムに関する研究」（共著）（筆頭），2018年12月，土木学会論文集G（環境）Vol.74(No.7) 215-223
- 「下水汚泥との混合メタン発酵に向けたスーパーマーケット拠点方式生ごみ分別収集システム」（共著）（筆頭），2017年11月，土木学会論文集G（環境）Vol.73,2017，pp.Ⅲ105-113
- 「Methane Recovery and Microbial Community Analysis of a High Solid Thermophilic Co-digestion of Sewage Sludge and Waste Fried Tofu」（共著），2016年10月，Journal of Water and Environment Technology，Vol.14，No.5，pp.319-328
- 「Effects of microwave pretreatment of dewatered sludge from an oxidation-ditch process on the biogas yield in mesophilic anaerobic digestion」（共著）（筆頭），2016年8月，Journal of Water and Environment Technology，Vol.14，No.3，pp.158-165
- 「Anaerobic digestion of sewage sludge with high solid content and its use as fertilizer」（共著），2015年10月，Journal of Water and Environment Technology，Vol.13 No.5 2015，pp.349-358
- 「OD汚泥と廃油揚げを主体とする7種の廃棄物系バイオマスの高濃度混合消化」（共著）（筆頭），2014年12月，土木学会論文集G（環境）Vol.70,2014，pp.Ⅲ425-432
- 「Comparative performance of mesophilic and thermophilic anaerobic digestion for high-solid sewage sludge」（共著），2013年12月，Bioresource Technology，Volume 149，December 2013，pp.177-183
- 「オキシデーションディッチ汚泥と廃油揚げを用いた高濃度混合嫌気性消化」（共著）（筆頭），2013年11月，土木学会論文集G（環境）Vol.69，2013，pp.Ⅲ597-603

【報告書】
- 「小規模処理場施設に適したメタンガス有効利用支援に関する共同研究報告書」（共著），2014年6月，独立行政法人土木研究所
- 「稲わらと下水汚泥の高濃度混合高温消化と炭化を核とした地域内循環システムに関する研究報告書」（共著），2019年3月，国土技術政策総合研究所　下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト）

【総説等】
- 「混合嫌気性消化による下水処理場の地域バイオマスステーション化」（単著），2021年11月，再生と利用 45(168)，pp.46-54
- 「小規模市町村における地域で発生する廃棄物系バイオマスの混合嫌気性消化」（単著），2021年4月，用水と廃水 63(4)，pp.51-56
- 「稲わらと下水汚泥の混合メタン発酵処理システム」（共著）（筆頭），2020年5月，環境上化技術 19(3)，pp.53-58
- 「下水汚泥のリサイクルと小規模下水処理場向け高濃度混合メタン発酵技術」（共著），2015年9月，日本エネルギー学会誌，第94巻7号，2015，pp.705-714

【国際会議】
- 「Microbial community and methane yield transition by decreasing of rice straw addition in high solid thermophilic sludge co-digestion」（共著）、2022年9月、IWA World Water Congress & Exhibition Copenhagen，2022
- 「Regional resource and energy circulation by anaerobic digestion of organic wastes with lactic acid and photosynthetic bacteria」（共著），2020年9月，Virtual Sustainable Waste Management Conference，September 15-17
- 「Effect of Extracellular Polymeric Substances on Methane Production Potential of Activated Sludge from Oxidation Ditch Process」（共著），2018年7月，Water and Environment Technology Conference 2018
- 「Anaerobic digestion of highly concentrated sewage sludge for sludge management in small cities」（共著），2014年9月，IWA World Water Congress & Exhibition，Lisbon，Portugal
- 「Anaerobic co-digestion of highly-concentrated sewage sludge and organic wastes for small facilities」（共著），2013年6月，13th World Congress on AnaerobicDigestion，June 25-28，Santiago de Compostela，Spain，p.220
- 「Mesophilic co-digestion of sewerage sludge in the oxidation-ditch process and wasted fried tofu」（共著），2012年12月，Proceedings of the 4th IWA Asia-Pacific Young Water Professionals Conference 2012 Tokyo，pp.148-151.

■社会貢献活動

- 鳥取県浄化槽整備及び適正管理推進協議会会長（2021年～）
- 鳥取市下水道等事業運営審議会委員（2018年～）
- 鳥取市水道事業審議会委員（2018年～）
- 「よなご未利用エネルギー活用事業」事業可能性調査業務検討委員会委員長（2019年～ 2020年）
- 招待講演　第23回水環境学会シンポジウム「地域内資源・エネルギー循環拠点としての下水処理場（メタン発酵を核として）（2020年9月）
- 招待講演　第57回環境工学研究フォーラム・一般公開シンポジウム【環境工学と農業分野の連携による資源・エネルギー循環】「農業廃棄物（稲わら）と下水汚泥の混合消化について」（2020年12月）
- 倉吉市下水道使用料審議会委員（2018年～ 2019年）
- 鳥取市尚徳大学「下水道の役割と未来～循環型社会の構築に向けて～」（2019年7月）
- 石川県下水道フォーラム講演「下水汚泥はエネルギーの源！～きらわれ者から役立つ資源(しげん)へ～」（2018年10月）
- 鳥取県農林水産部指定管理施設運営評価委員会委員（2017年）

研究キーワード
地理学, ジオパーク

柚洞 一央

准教授

YUHORA, Kazuhiro

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

■主な担当科目　人文地理学, 環境地理学, 自然環境と文化

■研究者略歴

1994（平成 6）年 3月	栃木県立宇都宮高等学校卒業
2001（平成13）年 3月	琉球大学法文学部人文学科卒業
2004（平成16）年 3月	筑波大学大学院教育研究科修了
2011（平成23）年 3月	北海道大学大学院文学研究科修了
2011（平成23）年 4月～	室戸ジオパーク推進協議会地理専門員
2015（平成27）年 4月～	徳山大学経済学部准教授
2015（平成27）年 4月～	高知工科大学非常勤講師（地誌学）
2017（平成29）年 4月～	山口大学人文学部非常勤講師（人文地理学・地誌学）
2018（平成30）年 4月～	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2018（平成30）年 4月～	山口大学教育学部非常勤講師（地域人文地理学）
2018（平成30）年 7月～	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■取得学位　博士（文学）北海道大学，修士（教育学）筑波大学

■専門分野　地理学，ジオパーク，ジオツーリズム，地域づくり

■現在の研究テーマ
・地球と人が共存できる社会の実現
・主体的・対話的で深い学び

■受賞歴　2008（平成20）年3月　学会賞（奨励賞）日本地理学会

■所属学会　日本地理学会　人文地理学会　日本第四紀学会　北海道地理学会　生き物文化誌学会

■資格
中学校教諭専修免許状（社会）
高等学校教諭専修免許状（地理歴史）

Data

■研究等活動

【著書】
・「SDGsを考える」（共著），2020年，ナカニシヤ出版
・「こちら公立鳥取環境大学環境学部です！」（共著），2019年，今井出版
・「Natural Heritage of Japan: Geological,Geomorphological, and Ecological Aspects」（共著），2017年，Springer
・「フィールドノート古今東西（FENICS100万人のフィールドワーカーシリーズ13）」（共著），2016年，古今書院
・「中部・近畿・四国のジオ パーク（シリーズ大地の公園）」（共著），2015年，古今書院
・「生き物文化の地理学（ネイチャー・アンド・ソサエティ研究第2巻）」（共著），2013年，海青社

【論文】
・「室戸高校における地理学的視点を取り入れたジオパーク教育」（共著），2016年，『地学雑誌』125(6)
・「ジオパーク活動における地理学的視点の役割」（共著），2014年，『E-journal GEO』9(1)
・「多自然川づくりとは何だったのか？」（共著），2012年，『E-journal GEO』7(2)
・「Bank Erosion along the Rajang River in Malaysia」（共著），2009年，『地理学論集』84号
・「「花蜜資源」を求めて：-アルゼンチンにおける日系人養蜂業者の移動と経営戦略-」，2007年，『地理学論集』82号
・「日本の養蜂業における移動空間の狭域化と生産形態の多様化」，2006年，『地理学評論』79(13)

■社会貢献活動

・世界ジオパークネットワーク個人会員
・日本ジオパークネットワーク現地審査員
・Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会委員
・萩ジオパーク推進協議会顧問
・周南市地域とともにある学校づくり推進協議会会長
・田布施町総合計画策定検討委員会委員長
・鳥取県河川委員会委員

市民向け講演・グループワークファシリテーター実績多数
テーマ：青少年教育，不登校・発達障害，助け合い社会の実現（福祉），人権教育，地域住民主体の地域づくりなど

研究キーワード
キノコ, 木材腐朽菌, 加硫ゴム, ゴム生分解, 資源変換

佐藤　伸

准教授

SATO, Shin

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail s-sato@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　応用微生物学概論，バイオマス変換論，有機資源利用学，応用化学概論(分担)，生物学実験(分担)

■研究者略歴

1999（平成11）年 3月	弘前大学農学部農業生産科学科卒業
2001（平成13）年 3月	京都大学大学院農学研究科博士前期過程終了
2005（平成17）年 3月	京都大学大学院農学研究科博士後期過程終了 農学博士
2005（平成17）年 4月	京都大学生存圏研究所非常勤研究員
2005（平成17）年 5月	米国ペンシルベニア州立大学ポストドクタルフェロー
2007（平成19）年 8月	京都大学生存圏研究所産学官連携研究員
2008（平成20）年 4月	京都大学生存圏研究所教務補佐員
2008（平成20）年 5月	長岡技術科学大学工学部産学官連携研究員
2009（平成21）年 4月	鳥取環境大学環境マネジメント学科講師
2012（平成24）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2013（平成25）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科・同大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2015（平成27）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科・同大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■取得学位　農学博士（京都大学）

■専門分野　応用微生物学, バイオマス変換化学

■現在の研究テーマ
・キノコによる加硫天然ゴムの分解，および脱硫メカニズムの解明
・キノコを使った加硫ゴム再資源化プロセスの開発

■受賞歴
・2019年9月　（株）リバネス・マリンテックグランプリ・三井化学賞
・2002年12月　若手優秀発表者（第15回エラストマー討論会）

■所属学会　日本木材学会, 日本農芸化学会, 高分子学会, 日本生物工学会，日本ゴム協会，日本きのこ学会

Data

■研究等活動

【査読付き投稿論文】
・「Photocatalytic reaction design and its application in real wastewater treatment using TiO2 coated on the stainless-steel mesh. M. Wongaree, A. Bootwong, S. Choo-in, S. Sato 2022『Environmental Science and Pollution Research』29(30), 46293-46305
・「X線マイクロCTを用いた木材腐朽菌Trichaptum abietinumによる加硫天然ゴム分解過程の微細構造解析」佐藤伸, 濱田賢作, 武田佳彦『日本ゴム協会誌』2022 第95巻3号, 77-79
・「Degradation of sulfide linkages between isporenes by lipid peroxidation catalyzed by manganese peroxidase」S. Sato, Y. Ohashi, M. Kojima, T. Watanabe, Y. Honda, T. Watanabe. 2009『Chemosphere』77, 798-804
・「The first genome-level transcriptome of wood degrading fungus *Phanerochaete chrysosporium* grown on red oak」S. Sato, F.A. Feltus, P. Iyer, M. Tien. 2009『Current Genetics』, 55, 273-286
・「Expression Analysis of Extracellular proteins from *Pharerochare chrysosporium* grown on different liquid and solid substrates」, 2007,『Microbiology』, 153, 3023-3033
・「Microbial scission of sulfide linkages in vulcanized natural rubber by A white rot basidiomycete, *Ceriporiopsis subvermispora*. S. Sato, Y. Honda, M. Kuwahara, H. Kishimoto, N. Yagi, M. Muraoka, T. Watanabe. 2004『Biomacromolecules』5, 511-515
・「Degradation of vulcanized and nonvulcanized polyisoprene rubbers by lipid peroxidation catalyzed by oxidative enzymes and transition metals」. S. Sato, Y. Honda, M. Kuwahara, T. Watanabe. 2003『Biomacromolecules』4, 321-329

【著書】
・「白色腐朽菌およびバイオミメティックラジカル反応による加硫および未加硫ゴムの分解」環境修復と有用物質生産（共著）, 2003年シーエムシー出版

【総説】
・「ゴム分解キノコの発見とそれをつかったゴムの再資源化」2023年,『きのこだより』掲載予定
・「ゴム分解キノコの発見とそれをつかった加硫ゴムの再資源化」2022年,『ポリマー TECH』, 第15巻 33-36
・「ゴム分解キノコの発見とそれをつかったゴムの再資源化」2022年,『月間アグリバイオ』, 第6巻, 3号
・「ゴム分解キノコの発見とそれをつかった加硫ゴムの再資源化」2022年,『日本ゴム協会誌』, 第95巻, 1号
・「木材腐朽菌による加硫ゴムの分解と再資源化」2021年,『月間アグリバイオ』, 第5巻, 12号
・「木材腐朽菌による加硫ゴムの分解と再資源化」2021年,『月間アグリバイオ』臨時増刊号』, 第5巻, 8号
・「キノコの機能を応用した加硫ゴム再資源化技術の開発に向けて」2021年『月間JETI』, 2020年, 第68巻, 11号

【特許】
・軟化ゴムの製造方法２（出願中, 令和4年3月）　佐藤伸
・軟化ゴムの製造方法（出願中, 令和3年9月）佐藤伸
・ゴムの分離方法（出願中, 令和3年1月）佐藤伸, 濱田賢作
・ゴム組成物およびその製造方法，ならびに該ゴム組成物を用いた空気入りタイヤ（特願2004-311254, 平成16年10月26日）佐藤伸, 渡辺隆司, 岸本浩通, 八木則子, 村岡清繁
・リグニン分解酵素によって分解処理された酵素分解ゴムを有するゴム組成物およびその製造方法，ならびにこれを用いた空気入りタイヤ（特願2004-044231, 平成16年 2月20日）佐藤伸、渡辺隆司, 岸本浩通, 八木則子, 村岡清繁
・木材腐朽菌による加硫ゴム組成物の分解処理法（特願2002-2631128, 平成14年 9月 9日)佐藤伸, 渡辺隆司, 岸本浩通, 八木則子, 村岡清繁

【招待講演】
・「キノコをつかったゴムの再資源化」アドバンテックセミナー 2023 ゴム・高分子とSDGs（オンライン）2023年2月
・「ゴム分解キノコの発見とそれを使ったゴムの再資源化」産業技術連携会議　ナノテクノロジー・材料部会　第60回高分子分科会（オンライン）2022年11月
・「ゴム分解キノコの発見とそれを用いたゴムの再資源化」日本ゴム協会　第60回新世代エラストマー技術研究分科会2022年3月

【研究発表】
・「木材腐朽菌Trichaptum種による加硫天然ゴムシートの劣化分解は炭酸カルシウムフィラーの脱離と関連する」環境バイオテクノロジー学会（東京）2022年11月
・「Biodeterioration of natural rubber sheets: Removal of calcium carbonate filler may be a trigger for the degradation by wood decay fungi, Trichaptum abietinum and Trichaptum biforme」ISBP2022 (Sion, Switzerland) 2022年9月
・「Biodeterioration of natural rubber sheets: Removal of calcium carbonate filler may be a trigger　for the degradation by wood decay fungi」RubberCon2022（Kuara Lumpur, Malaysia)2022年9月
・「天然ゴムシートの劣化分解は木材腐朽菌Trichaptum種による炭酸カルシウムフィラーの脱離と関連する」日本きのこ学会年次大会（宇都宮）2022年9月
・「X線マイクロCTを用いた木材腐朽菌Trichaptum abietinumによる加硫ゴム分解挙動の微細構造解析」日本ゴム協会年次大会（東京・オンライン）2022年5月
・「X線マイクロCTを用いた木材腐朽菌Trichaptum abietinumによる加硫ゴム分解過程の微細構造解析」日本きのこ学会年次大会（鳥取・オンライン）2022年3月
・「Evaluation of microbial behavior by wood rotting fungi for recycle of rubber wastes」Rubbercon2020（Paris, France)2021年2月

【科学研究費補助金】
・JSPS 2020年度基盤研究（C）「木材腐朽菌シロカイメンタケによるゴムの再資源化」(2020 ～ 2022)
・JST A-STEP 機能検証フェーズ「ゴム分解菌処理によるゴム再生プロセスの省力化」(2019 ～ 2020)

■社会貢献活動

【中・高等学校出前講義】
・「キノコをつかったゴムの再資源化」（米子北高校・オンライン）2022年12月
・「キノコをつかったゴムの再資源化」（丹後緑風高校・オンライン）2022年6月
・「キノコをつかったゴムのリサイクル」夢ナビライブ 2022年5月
・「キノコをつかったゴムのリサイクル」夢ナビライブ　2021年5月
・「ゴムを再資源化するキノコ?!」夢ナビライブ 2020年9月

【鳥取環境大学公開講座】
・「キノコをつかったゴムの再資源化」2022年7月
・「食べるだけがきのこじゃない！？きのこのちからでゴムをリサイクル」2018年5月
・「木を分解する菌類のお話」　2013年10月

研究キーワード
土壌侵食, 土壌劣化, 物質循環, 集水域, 地理情報システム

角野 貴信

准教授

KADONO, Atsunobu

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

https://sites.google.com/site/kadonoslab/ http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g007308 kadono@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　基礎土壌学, 環境土壌学, 水環境学

■研究者略歴

2000（平成12）年 3月	京都大学農学部生産環境科学科卒業
2006（平成18）年 4月	地球環境学研究所リサーチアシスタント
2008（平成20）年 3月	京都大学農学研究科博士後期課程修了，博士（農学）
2008（平成20）年 4月	日本原子力研究開発機構博士研究員
2009（平成21）年 1月	首都大学東京都市環境科学研究科助教
2010（平成22）年 8月	米国オハイオ州立大学博士研究員
2011（平成23）年 9月	鳥取環境大学人間形成教育センター講師
2012（平成24）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2013（平成25）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2015（平成27）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科准教授

Research

■取得学位　博士（農学）（京都大学）

■専門分野　土壌学, 生物地球化学

■現在の研究テーマ
・河川堆積物及び懸濁物のアノマリーデータから予想される流域内土砂流出量の期待値分布
　－千代川流域における流域土壌から水系への物質移動過程に関する研究
・有機質資材を用いた土壌有機物の蓄積及び分解過程の解明とそのモデル化
　－水田土壌からの温室効果ガス（二酸化炭素・メタン・亜酸化窒素）放出に関する研究
　－浸透過程における有機物―粘土鉱物間の吸着メカニズムに関する研究

■受賞歴
2009（平成21）年4月　日本ペドロジー学会論文賞
2017（平成29）年3月　日本ペドロジー学会論文賞

■所属学会　日本土壌肥料学会, 日本ペドロジー学会, 日本地理学会, 日本水環境学会

Data

■研究等活動

【著書】
・持続可能な社会における土壌資源管理とその指標化（共著（06章を単著））「SDGsを考える」ナカニシヤ出版, pp. 99-111. 2020
・10.4　土壌劣化と砂漠化 (共著（10.4節を単著)) 「改訂 土壌学概論」朝倉書店, pp. 167-173. 2020
・03土の黒さから考える自然資源の保全と利用の適切なバランス（共著（03章を単著））公立鳥取環境大学環境学部「こちら公立鳥取環境大学環境学部です！」 今井出版, pp. 28-34. 2019
・4-4 チェルノゼムにおけるコムギ栽培と土壌有機物分解 (共著（4-4節を単著)) 日本土壌肥料学会「土のひみつ」編集グループ（編）「土のひみつ」 朝倉書店, pp. 96-99. 2015
・10.4.2 Soil organic carbon change. (共著) Status of the World's Soil Resources, FAO, pp. 299-300. 2015
・Could Soil Acidity Enhance Sequestration of Organic Carbon in Soils? (共著) A.E. Hartemink and K. McSweeney (Eds) Soil Carbon, Springer International Publishing, pp. 209-216. 2014

【論文・報告】
・有機質資材連用年数が水稲による窒素吸収量及び水田土壌中の窒素含量に与える影響 (共著) 地域イノベーション研究 9, 11-16. 2022
・有機質資材の投入が酒造好適米の生産環境に与える影響 (共著) 地域イノベーション研究 8, 22-26. 2021
・不撹乱環境下における土壌有機物代謝過程の分子動力学的解析 (共著) 地域イノベーション研究 5, 19-23. 2018
・ミネラルウォーターのおいしさに係る簡単な水質指標の導出 (共著) 鳥取環境大学紀要 15, 103-108. 2017
・Ecological state of soil and land resoureces of the Russian Far East (共著) The Territory of New Opportunities 4, 166-175. 2016
・中国内モンゴル自治区フルンボイル草原において観光行動が草原退化に及ぼす影響 (共著) ペドロジスト 59 (2), 52-62. 2015
・中国内モンゴル自治区の牧畜業において土地利用様式の違いが植生及び土壌に与える影響 (共著) ペドロジスト 59 (2), 41-51. 2015
・In situ short-term dynamics of CO2 flux and microbial biomass after simulated rainfall in dry croplands in four tropical and continental ecosystems (共著) Soil Science and Plant Nutrition 61, 392-403., 2015
・Long-term tillage and drainage influences on greenhouse gas fluxes from a poorly drained soil of central Ohio (共著) Journal of Soil and Water Conservation 69 (6), 553-563., 2014
・Effects of climatic and soil properties on cellulose decomposition rates in temperate and tropical forests (共著) Biology and fertility of soils 50 (4), 633-643, 2014

【国際会議】
・The effect of bamboo powder application on the yield of Japanese white radish (Rhaphanus sativus L.) and soil properties.（共同）The 21st World Congress of Soil Sciences, Rio de Janeiro, Brazil, 2018
・Environmental studies for the sustainable development during the international decade of soils 2015-2025（単独）International Symposium "Entrepreneurship as a Factor of Dynamic Development of the Russian Far East", Vladivostok, Russia, 2016
・Modeling of Greenhouse Gas Emission from Soils under Different Ecosystem (単独)International Symposium "Ecological Challenges of Nature Management and Environmental Protection in the Asia-Pacific Region", Vladivostok, Russia, 2015
・Modeling of Carbon Dioxide Emission from Cornfield Soils under Different Water Table and Tillage Management in Central Ohio, USA (共同) 20th World Congress of Soil Science, Jeju, Korea, 2014
・Grassland degradation caused by tourism activities in Hulunbuir, Inner Mongolia, China (共同) IOP Conference Series: Earth and Environmental Science 18 (1), 012137. 8th International Symposium of the Digital Earth (ISDE8), Kuching, Sarawak, Malaysia, 2013

■社会貢献活動

・『山』と『海』がつながっていることを調べよう！「とっとり名産探し隊～つながる山と海！海を支える恵みの正体を追え～」（2022年8月）
・土は生きている！土の中のいろんな生き物を観察してみよう「山陰海岸ジオパーク科学実験教室」（2018年7月）
・地域の自然資源を循環させて，環境をまもる土づくり「公立鳥取環境大学公開講座」（2021年6月）
・おどろきの土の生きものたち「2021年度第2回山陰海岸ジオパークサイエンスカフェ」（2021年10月）
・鳥取県環境影響評価審査会委員（2012年4月～ 2019年3月）
・鳥取市こども科学館運営委員会委員（2015年4月～ 2020年3月）

研究キーワード
衛星画像, 画像処理, 機械学習, 沿岸生態系, 浅海域海底地形

佐川 龍之

准教授

SAGAWA, Tatsuyuki

所属…環境学部 環境学科

Profile

■主な担当科目　地球観測学, 環境情報学概論, AI, AI実践演習, 情報リテラシ1

■研究者略歴

2003（平成15）年 3月	早稲田大学理工学部土木工学科卒業
2005（平成17）年 9月	東京大学大学院修士課程新領域創成科学研究科環境学専攻修了
2006（平成18）年 4月	日本学術振興会特別研究員（～2009年3月）
2008（平成20）年 9月	東京大学大学院博士課程新領域創成科学研究科自然環境学専攻修了, 環境学博士
2009（平成21）年 4月	セコム株式会社IS研究所研究員（～2012年1月）
2012（平成24）年 2月	一般財団法人リモート・センシング技術センター研究開発部研究員
2015（平成27）年 7月	一般財団法人リモート・センシング技術センター研究開発部主任研究員
2019（平成31）年 4月	早稲田大学理工学術院非常勤講師
2019（平成31）年 4月	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構地球観測研究センター主任研究開発員
2021（令和 3）年 7月	一般財団法人リモート・センシング技術センター研究開発部主任研究員（～2022年3月）
2022（令和 4）年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2023（令和 5）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授

Research

■取得学位　環境学博士（東京大学）

■専門分野　リモートセンシング, 人工知能, 画像処理, 環境学

■現在の研究テーマ
・衛星画像を用いた浅海域海底地形推定技術に関する研究
・沿岸環境のモニタリングに関する研究
・リモートセンシングデータの農業分野への活用に関する研究
・リモートセンシングによる水環境モニタリング

■受賞歴　2018（平成30）年3月　内閣府主催第３回宇宙開発利用大賞　環境大臣賞　受賞

■所属学会　日本リモートセンシング学会, 日本写真測量学会, 日仏海洋学会

■資格　測量士, 潜水士

Data

■研究等活動

【論文】
・「Mapping aquaculture rafts from a GeoEye-1image using U-Net」（共著）, 2022年, Proceedings of the 43rd Asian Conference on Remote Sensing, ARCS22_37, pp. 1-7.
・「Monitoring trophic status using in situ data and Sentinel-2 MSI algorithm: lesson from Lake Malombe, Malawi」（共著）, 2022年, Environmental science and pollution research, Nov. 2022, pp. 1-18.
・「耕作地におけるSGLIとMODIS地表面温度プロダクトの相互利用の検討」（共著）, 2021年, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 41, No. 5, pp.603-610.
・「Practical mapping methods of seagrass beds by satellite remote sensing and ground truthing」（共著）, 2020年, Coastal marine science, Vol. 43 No. 1, pp. 1-25
・「WorldView衛星画像を用いた浅海域における汎用水深推定式に関する研究」（共著）, 2019年, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 39, No. 2, pp.112-122.
・「Shallow water bathymetry derived by machine learning and multitemporal satellite images」（共著）, 2019年, Proceedings of 2019 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium, pp. 8222-8225.
・「Satellite derived bathymetry using machine learning and multi-temporal satellite images」（共著）, 2019年, Remote Sensing, Vol. 11, No. 1155, pp. 1-19.
・「Simulation-based investigation of the generality of Lyzenga's multispectral bathymetry formula in Case-1 coral reef water」（共著）, 2018年, Estuarine, Coastal and Shelf Science, Vol. 200, pp. 81-90.
・「Evaluating the performance of Lyzenga' s water column correction in case-1 coral reef water using a simulated Wolrdview-2 imagery」（共著）, 2016年, IOP Conference Series: Earth and Environmental Science. 47, 1-13.
・「Simulation of seagrass beds mapping by satellite image based on the radiative transfer model」（共著）, 2015年, Ocean Science Journal, 50, 335-342.
・「Mapping seaweed forests with IKONOS image based on bottom surface reflectance」（共著）, 2012年, Proceedings of the SPIE Asia-Pacific Remote Sensing, 8525, 85250Q1-85250Q7.

【報告書】
・「衛星画像推定水深を活用した海洋情報業務の展望」（共著）, 2017年, 海洋情報部研究報告, 54, 17-31.

【特許】
・「画像処理装置」（共著）, 2015年, 登録番号：第5715863号, 内容：動画像からの移動物体抽出に関する装置

■社会貢献活動

・文部科学省科学技術 学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員（2017.4～現在）
・UNESCO IOC（政府間海洋学委員会）/WESTPAC（西部太平洋地域委員会）におけるORSP（海洋リモートセンシング・プロジェクト）の運営委員会（steering committee）の委員（2015.4～現在）

研究キーワード
学校経営, 学校組織, 高校教育

川口有美子　准教授

KAWAGUCHI, Yumiko

所属…環境学部 環境学科

Profile

■主な担当科目　教職論，教育原理，教育の制度と経営，教育行政学

■研究者略歴

2002（平成14）年 3月	駒澤大学経済学部経済学科　卒業
2005（平成17）年 3月	筑波大学大学院修士課程教育研究科教科教育専攻（学校教育コース）　修了
2011（平成23）年 4月	筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科教育学専攻　単位取得退学
2008（平成20）年10月	東京医科大学霞ヶ浦看護専門学校非常勤講師（～2011年3月）
2009（平成21）年 4月	筑波大学附属中学校非常勤講師（～2010年3月）
2011（平成23）年 5月	筑波大学人間系(教育学域)特任研究員（～2012年3月）
2011（平成23）年10月	千葉大学教育学部非常勤講師（～2012年3月）
2012（平成24）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2015（平成27）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2017（平成29）年 3月	玉川大学教育学部非常勤講師（～2021年3月）

Research

■取得学位　修士（教育学）筑波大学

■専門分野　学校経営学，教育行政学

■現在の研究テーマ
・高等学校と地域との協働に関する研究
・学校組織における専門スタッフに関する研究
・学校事務に関する研究

■受賞歴　2010（平成22）年7月　大塚学校経営研究会研究奨励賞

■所属学会　日本教育学会，日本教育経営学会，日本教育行政学会，日本教育制度学会，日本教育事務学会，日本高校教育学会，日本義務教育学会，日本教育社会学会，日本教師教育学会,大塚学校経営研究会

■資格　中学校教諭専修免許状（社会），高等学校教諭専修免許状（地理歴史・公民）

Data

■研究等活動

【著書，雑誌論文】
・「事務職員のための教育情報最前線①～⑫」『月刊 学校事務』2021年4月号～2022年3月号連載，学事出版
・「子供の幸福度と学力を高める教育長の事例研究」露口健司・藤原文雄編著『子供の学力とウェルビーイングを高める教育長のリーダーシップ』（共著）学事出版，2021年，95-128頁
・書評「浜田博文編著『学校ガバナンス改革と危機に立つ「教職の専門性」』」『学校経営研究』第46巻，大塚学校経営研究会，2021年，82-89頁
・書評「小樽市人口減少問題研究会著『人口半減社会と戦う―小樽からの挑戦―』」『日本高校教育学会年報』第27号，2020年，70-71頁
・「SSH，SGH，SPH」藤田晃之ほか監修『教育キーワード2019』，2019年，時事通信出版局，82-83頁
・「研究開発学校と教育課程特例校」同上書，116-117頁
・「指導力不足教員」「主幹教諭」「助教諭」「職業教育」「副校長」橋本美保編集代表『改訂版教職用語辞典』，2019年，一藝社，249-250，265，288，289-290，422頁
・「学校改善と組織文化の変革」浜田博文編著『学校経営』MINERVAはじめて学ぶ教職第９巻,2019年，ミネルヴァ書房，117-128頁
・「小・中学校運営体制の改革」（柏木智子氏と共著）藤原文雄編『「学校における働き方改革」の先進事例と改革モデルの提案』，2019年，学事出版，30-37頁
・「『チーム学校』から『チーム学園』へ―2校以上の学校と『チーム』になる意味―」日本教育事務学会研究推進委員会編『チーム学校の発展方策と地域ユニット化への戦略』，2018年，学事出版，126-138頁
・「47都道府県の教育課題―鳥取県」『教職研修』2017年3月号，教育開発研究所，127頁
・「情報化と学校事務」学校事務実務研究会編集『小・中学校Ｑ＆Ａ学校事務実務必携』，2017年，ぎょうせい，301-311頁
・「『チーム学校』による業務改善・事務体制の強化」，「教員以外の専門スタッフの参画―事務職員」加藤崇英編集『「チーム学校」まるわかりガイドブック』，2016年，教育開発研究所，40-41，70頁
・「学校づくりと教職員の協働」小島弘道編著『学校教育の基礎知識』，2015年，協同出版，383-397頁
・「授業改革の進展とカリキュラム」木岡一明編『教育改革をめぐる重要課題』学校マネジメント研修テキスト6，2013年，学事出版，96-108頁
・「子どもの発達と社会」佐藤博志編著・照屋翔大・木村裕・川口有美子・高橋望共著『教育学の探究―教師の専門的思索のために―』，2013年,川島書店，81-107頁

【学術論文】
・「高校教育における地域協働の意義と課題に関する一考察―過疎地域高校の事例を手がかりにして―」『学校経営研究』第47巻，大塚学校経営研究会，2022年，39-52頁
・「チーム学校の実現における学校事務職員の役割―校長・学校事務職員調査の自由記述分析より―」（分担）『学習開発学研究』第14号，広島大学大学院人間社会科学研究科教育科学専攻，2022年，85-94頁
・「チーム学校の実現と学校事務職員の職務態様との関連―校長及び学校事務職員対象の質問紙調査から―」（共著）『日本教育事務学会年報』第6号，2019年，50-61頁
・「中高連携・一貫教育における学校改革の意義と課題―高校改革から地域協働の教育経営へ―」『学校経営研究』第44巻，2019年，大塚学校経営研究会，14-22頁
・「地域創生に資する市町村と県立高校の連携･協働に関する一考察―過疎地域の高校をめぐる課題の特質―」筑波大学学校経営学研究会『学校経営学論集』第6号，2018年，1-10頁
・「学校管理職とどう『チーム』を組んでいくのか」『日本教育事務学会年報』第3号，2016年，学事出版，36-42頁
・「高等学校の初任期教員育成に関する基礎的研究―Ａ県での事例調査を手がかりに―」筑波大学学校経営学研究会『学校経営学論集』第3号，2015年，41-52頁
・「高等学校改革を越えた異校種間『接続』―中高一貫教育制度の課題と展望―」日本教育制度学会『教育制度学研究』第20号，2013年，34-44頁

【報告書】
・「「教職員と専門スタッフによるチームとしての学校づくり」に関する調査研究報告書」佐久間邦友研究代表「教員と専門スタッフとのチーム体制構築に関する研究」，令和２年度公益財団法人日本教育公務員弘済会本部奨励金，2022年
・『学校事務職員の専門性を活かした効果的な「チーム学校」促進モデルの開発に関する研究　成果報告書』川口有美子研究代表「平成30年度公益財団法人日本教育公務員弘済会本部奨励金」，2019年
・「行政と学校の両現場における条件整備を主眼とするリーダーシップ―矢掛町教育委員会」『「次世代の学校」実現に向けた教育長・指導主事の資質・能力向上に関する調査研究報告書』国立教育政策研究所平成30年度プロジェクト研究報告書，2019年，140-143頁
・「事務局指導主事の人材育成の現状」同上報告書，292-299頁
・「事例の概要と調査記録　中国・四国地方Ｏ町」天笠茂研究代表「人口減少社会における地域共生に資する学校適正規模・学校適正配置に関する研究」平成26-28年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）事例資料集，2014年，171-176頁
・「事例の概要と調査記録　中国・四国地方Ｑ町」同上報告書，209-214頁

■社会貢献活動

・静岡県立高等学校の在り方検討委員会委員（2022年度）
・鳥取県社会教育委員連絡協議会会長（2021.3-）
・鳥取県教育審議会生涯学習分科会（鳥取県社会教育委員）会長（2020.10-）
・鳥取県社会教育協議会理事（2021.3-）
・鳥取市社会教育委員（2020.10-）
・鳥取市教育委員会学校働き方改革推進委員会委員長（2022年度-）
・兵庫県立浜坂高等学校学校評議員（2019年度-）
・兵庫県立香住高等学校学校評議員（2020年度-2021年度）
・鳥取市立江山学園学校運営協議会委員（2022年度-）
・鳥取市立湖南学園学校運営協議会委員（2020年度-）
・鳥取市立若葉台小学校学校運営協議会委員（2018年度-）
・鳥取市市政改革推進市民委員会委員（2020年度-）
・鳥取市行財政改革推進市民委員会委員（2018-2019年度）
・鳥取市教育委員会「学校運営協議会の設置・拡充に向けた調査研究事業」（文部科学省）指導助言者（2018-2019年度）
・青翔開智中学校・高等学校「鳥取県SGH事業」運営委員（2017-2019年度）
・鳥取市教育委員会第13-14期校区審議会委員（2016-2020年度）
・鳥取市教育委員会「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」（文部科学省）指導助言者（2017-2019年度）
・鳥取県教育委員会県立学校第三者評価委員会委員（2013-2017年度）

研究キーワード
サンゴ, 化石, 進化, 骨格微細構造, 機能形態, 古環境復元

徳田 悠希

准教授

TOKUDA, Yuki

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

■主な担当科目　地学概論, 環境地質学, 地学実験

■研究者略歴

2006（平成18）年 3月	大阪市立大学理学部地球学科　卒業
2008（平成20）年 3月	大阪市立大学理学研究科前期博士課程　修了
2010（平成22）年 3月	大阪市立大学理学研究科後期博士課程　単位取得退学
2010（平成22）年 4月	鳥取県立博物館　学芸員
2012（平成24）年 4月	鳥取県立博物館　主任学芸員
2013（平成25）年 3月	学位取得　博士（理学）（大阪市立大学）
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科　講師
2016（平成28）年 6月	公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻　講師
2020（令和 2）年10月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科/環境経営研究科環境学専攻　准教授

Research

■取得学位　博士(理学)（大阪市立大学）

■専門分野　地質学　古生物学

■現在の研究テーマ
- イシサンゴ類の進化史の解明
- 南西諸島海域における深海サンゴの多様性の解明
- 山陰海岸に分布する海食洞の形成様式と洞内生物群集
- 新生界から産出する無藻性イシサンゴ化石の系統分類学的検討
- 南極海の現生および化石サンゴ類の多様性と古海洋環境の解明

■受賞歴

2009年1月	日本古生物学会	優秀ポスター賞
2009年9月	日本地質学会	優秀ポスター賞
2012年9月	日本地質学会	優秀ポスター賞
2017年9月	日本地質学会	優秀ポスター賞
2018年9月	日本地質学会	優秀ポスター賞
2022年7月	日本古生物学会	論文賞

■所属学会　日本古生物学会，日本地球惑星科学連合，日本サンゴ礁学会，鳥取地学会

Data

■研究等活動

【論文（査読あり）】

- 鈴木克明・板木拓也・片山肇・兼子尚知・山﨑誠・徳田悠希・千徳明日香 (2022) 宝島及び諏訪之瀬島周辺海域の底質分布とその制御要因. 地質調査研究報告, vol. 73, p. 275–299
- Ishiwa, T., Tokuda, Y., Sasaki, S., Itaki, T., Suganuma, Y., Katsuki, K., and Ikehara, M. (2022) Non-destructive analysis and lithological descriptions of sediment cores from Lake Nurume, Langhovde in Lützow-Holm Bay. Polar Data Journal, vol. 6, p. 80–89.
- Yamasaki, H., Fujimoto, S., Tanaka, H., Shimada, D., Ito, M., Tokuda, Y., & Tsujimoto, M. (2022) Taxonomy, genetic diversity, and phylogeny of the Antarctic mud dragon, Polacanthoderes (Kinorhyncha: Echinorhagata: Echinoderidae). Zoologischer Anzeiger, vol. 301, p. 42-58.
- Sasaki, S., Irizuki, T., Itaki, T., Tokuda, Y., Ishiwa, T. and Suganuma, Y. (2022) Relationship between modern deep-sea ostracods and water mass structure in East Antarctica. Paleontological Research, vol. 27, p. 211-230.
- Sentoku, A., Shimizu, K., Naka, T., and Tokuda, Y. (2022) Dimorphic life cycle through transverse division in burrowing hard coral Deltocyathoides orientalis. Scientific Reports, 12, 9359.
- Tamura, T., Ishiwa, T., Tokuda, Y., Itaki, T., Sasaki, S., Suganuma, Y. (2022) Luminescence characteristics of coastal sediments in Langhovde, East Antarctica. Quaternary Geochronology, vol. 70, 101298-101298.
- Sentoku, A. and Tokuda, Y. (2021) New Records of Azooxanthellate Scleractinian Corals (Cnidaria: Anthozoa) from Sagami Bay and Suruga Bay, Japan. Zoological Science, vol. 39, p. 52-61.
- Ishiwa, T., Tokuda, Y., Itaki, T., Sasaki, S., Suganuma Y. and Yamasaki S. (2021) Bathymetry data and water column profiles in the shallow waters of Langhovde in Lützow-Holm Bay, East Antarctica. Polar Science, 100650.
- Tokuda, Y. and Ezaki, Y. (2020) Microskeletal structures suggest taxonomic distinction between subgenera of azooxanthellate scleractinian *Flabellum*. Paleontological Research, vol. 24, p. 261-275.
- 延原尊美・大髙歩美・徳田悠希・池原　研（2018）東海沖深海底の貝類およびサンゴ遺骸のAMS^{14}C年代. 静岡大学地球科学研究報告. 第45号. p. 17-22.
- Sentoku, A., Tokuda, Y., Ezaki, Y. and Webb, G. E. (2018) Modes of regeneration and adaptation to soft-bottom substrates of the free-living solitary scleractinian Deltocyathoides orientalis. Lethaia, Vol. 51, p. 102-111.
- Kitamura, A., Imai, T., Mitsui, Y., Ito, M., Miyairi, Y., Yokoyama, Y. and Tokuda, Y. (2017) Late Holocene uplift of the Izu Islands on the northern Zenisu ridge off Central Japan. Progress in Earth and Planetary Science, 4, 30.
- Tokuda, Y., Haraguchi, H. and Ezaki, Y. (2017) First real-time observation of transverse division in azooxanthellate scleractinian corals.Scientific Reports, 7, 41762.
- Shiino, Y. and Tokuda, Y. (2016) How does flow recruit epibionts onto brachiopod shells? Insights into reciprocal interactions within the symbiotic framework. Palaeoworld, vol. 25, p. 675-683.
- Sentoku, A., Tokuda, Y. and Ezaki, Y. (2016) Burrowing hard corals occurring on the sea floor since 80 million years ago. Scientific Reports, 6, 24355.
- 和田年史・徳田悠希・一澤 圭（2014）鳥取県立博物館のダイオウイカ液浸展示標本. 鳥取県立博物館研究報告, 第51号, p. 67-71.
- Tokuda, Y. and Ezaki Y. (2013) Attachment structures in *Rhizotrochus* (Scleractinia): Macro- to microscopic traits and their evolutionary significance. Lethaia, vol. 46, p. 232-244.
- Tokuda, Y. and Ezaki, Y. (2012) Asexual reproduction of Pliocene solitary scleractinian coral *Truncatoflabellum*: Morphological and biometric study. Journal of Paleontology, vol. 86, p. 268-272.
- 和田年史・徳田悠希・山口暁美（2012）「総合的な学習の時間」におけるジオパークと博物館の活用事例. 鳥取県立博物館研究報告, 第29号, p. 17-28.
- Tokuda, Y., Ikeno, T., Goto, G. S., Numata, H. and Ezaki, Y. (2010) Influence of different substrates on the evolution of morphology and life-history traits of azooxanthellate solitary corals (Scleractinia: Flabellidae). Biological Journal of the Linnean Society, vol. 101, p. 184-192.

研究キーワード
グループ・ダイナミックス, エネルギーコミュニケーション, 環境コミュニケーション, 環境活動, 環境配慮行動, 地域活性化

甲田 紫乃

准教授

KODA,Shino

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

URL http://jp.shinokoda.com/　E-Mail s-koda@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　環境政策論, 大気汚染防止, 環境アセスメント概論, 環境教育論, 衛生工学特論, SDGｓ基礎, 麒麟の知

■研究者略歴

2007（平成19）年 3月	京都大学経済学部経済学科卒業
2009（平成21）年 3月	京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻修士課程修了
2012（平成24）年 9月	京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻博士課程修了
2012（平成24）年10月	オーストリア Johannes Kepler Universität Linz博士研究員
2016（平成28）年 4月	東京福祉大学国際交流センター特任講師
2018（平成30）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2018（平成30）年 7月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻講師
2023（令和 5）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2023（令和 5）年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■取得学位　博士（エネルギー科学）（京都大学）

■専門分野　エネルギー科学，グループ・ダイナミックス，社会心理学，エネルギーコミュニケーション

■現在の研究テーマ
・日常生活における環境配慮行動
・環境活動における環境志向型規範の伝達
・環境教育，エネルギー教育
・環境アート
・コミュニティにおける関係性とコミュニケーション
・地域活性化
・エネルギーコミュニケーション／環境コミュニケーション

■所属学会　日本グループ・ダイナミックス学会，The International Association of Applied Psychology, The Asian Association of Social Psychology，On Sustainability, Climate Change: Impacts & Responses, 日本質的心理学会, 土木学会, 日本環境教育学会

■資格　日本語教育能力検定試験合格

Data

■研究等活動

【著書】
・「地域の未来を変える空き家活用―鹿野のまちづくり20年の挑戦」（分担執筆），2021年，ナカニシヤ出版
・「SDGsを考える―歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会―」（共編著），2020年，ナカニシヤ出版
・「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」（分担執筆），2019年，今井出版
・「21世紀国際社会を考える― 多層的な世界を読み解く38章―」（分担執筆），2017年，旬報社

【論文（すべて単著，査読有）】
・Koda,S.(2016). Horizontal Relationship and Environmental Communication: A Case Study on Collaborative Activities between SPES and Local Residents in Austria,The International Journal of Environmental Sustainability, Volume 12, Issue 2, pp.17-31.
・甲田紫乃.「コンビニエンスストアにおける資源浪費の構造―参与観察に基づく短報―」，2012年，集団力学, 第 29 巻, pp. 87-103.
・Koda, S. (2012). Theoretical Approach to the Collaborative Environmental Activities: Household Waste Disposal towards Environmentally Friendly Daily Life, International Journal of Humanities and Social Science, vol.2, No.6, pp.104-110.
・Koda, S. (2012). Towards Environmentally Friendly Management at "Konbini" : Case Study at a Convenience Store in Japan, Journal of Alternative Perspectives in the Social Sciences, vol.3, No.4, pp. 946-957.
・Koda, S. (2012). The Motivation for Proenvironmental Behavior: Household Waste Disposal towards Environmentally Friendly Daily Life: Case Studies in Finland, Journal of Educational and Social Research, vol.2, No.1, pp. 191-198.

【研究発表の抜粋（すべて単独，査読有）】
・Koda, S. (2021). Forest Environmental Education Contributing to Community Revitalization: A Collaborative Practice Towards the SDGs Based on An Activity Theoretical Approach, Going Green EcoDesign 2021, December 1-3, 2021, Tokyo, Japan.　3
・Persuading People to Become Greener Through Collaborative Activities, Going Green CARE INNOVATION 2018, Vienna, Austria, 2018
・Horizontal Relationship for A Better Environmental Activity: A Case Study on Collaborative Activities between SPES and Local Residents in Austria,The Second Biennial International Convention of Psychological Science (ICPS), Vienna, Austria, 2017
・The "Tree" as a Driving Force for Environmental Education, The Eleventh International Conference on Environmental, Cultural, Economic & Social Sustainability, Copenhagen, Denmark, 2015
・Creating a Collective Stream towards an Environmentally Friendly Daily Life, The Sixth International Conference on Climate Change: Impacts and Responses, Reykjavik, Iceland, 2014
・Building Sustainable Communities as Part of Revitalization: An Austrian Way Based on Robust and Mutual Relationship between SPES and Local Residents, The Tenth International Conference on Environmental, Cultural, Economic & Social Sustainability, Split, Croatia, 2014

■社会貢献活動

【委員など】
・鳥取砂丘コナン空港カーボンニュートラル拠点化協議会委員（2023）
・湯梨浜町SDGs・脱炭素社会推進会議オブザーバー（2023）
・鳥取市都市整備部指定管理者選考委員会委員(2021 ～ 2022)
・鳥取県地球温暖化防止活動推進センター　チームゼロ・カーボン会議　委員（2020）
・鳥取市　連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員（2018 ～ 2022）

【研究関連活動】
・The On Sustainability Research Network（イリノイ大学）　Advisory Board Member (2019 ～)
・竹イノベーション研究会　メンバー（2019 ～）
・環境教育ネットワークENO（ENO Environment Online – A Global Virtual School and Network for Sustainable Development）日本/オーストリア・ナショナル・コーディネーター（2013 ～）

【地域の方々に向けた活動】
・「SDGs的活動の発送」, 2022, 鳥取県立米子東高等学校の生徒会主催による招待講演（鳥取県立米子高等学校）
・「わたしたちの生活から考えるSDGs ～持続可能な未来へ向けてのアクション」，2021，八頭町男女共同参画センター「かがやき」
・「KANラジ第2回テーマ「SDGsを考える」　歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会とは？」，2020，KANラジ出演（FM鳥取）
・「鳥取から考えるSDGｓ」，2020，鳥取市立桜ヶ丘中学校の総合学習（さくらはる課ｓ）における講演　（鳥取市桜ケ丘中学校）
・「環境コミュニケーション」，2020，「公立鳥取環境大学　未来への授業」（鳥取県民チャンネルコンテンツ協議会事務局）
・「SLCPs」，2019，「公立鳥取環境大学　未来への授業」（鳥取県民チャンネルコンテンツ協議会事務局）
・「地球温暖化とエネルギーについて」，2019，とっとりエコサポーターズ養成講座（鳥取県地球温暖化防止活動推進センター）

研究キーワード
気象観測, 雲海予測, ヒートアイランド現象, 熱中症

重田 祥範

准教授

SHIGETA, Yoshinori

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-mail shigeta@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　気象学概論, 大気環境学, 地球システム学

■研究者略歴

2011（平成23）年 3月	岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程　修了
2011（平成23）年 4月	立正大学地球環境科学部環境システム学科　助教　（～2015年3月）
2015（平成27）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科　講師　（～2017年3月）
2017（平成29）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科　准教授
2017（平成29）年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻　准教授

Research

■取得学位　博士（理学）（岡山大学）

■専門分野　局地気象学，生気象学，環境工学，地学教育

■現在の研究テーマ
・都市内の大気環境調査および熱中症リスクの評価
・盆地霧の発生・消滅過程の予測
・気象の「見える化」と自然災害軽減に向けた気象情報の活用法
・暑熱ストレスによる動物行動の変化（バイオロギング）
・ストレスモニタリングによるセラピー効果の検証
・気象変化が若年女性の自律神経活動に与える影響

■受賞歴
2014（平成26）年 7月　第9回全国大会ベストポスター賞（日本ヒートアイランド学会）
2015（平成27）年11月　平成27年度 日本生気象学会研究奨励賞（日本生気象学会）

■所属学会　日本気象学会，日本生気象学会，日本農業気象学会，日本地理学会，日本地学教育学会，日本建築学会，日本ヒートアイランド学会，土木学会，大気環境学会，環境情報科学センター，バイオクリマ研究会

■資格　中学校教諭専修免許状（理科），高等学校教諭専修免許状（理科），健康気象アドバイザー

Data

■研究等活動

【著書】
・「こちら公立鳥取環境大学環境学部です！」，（共著），2019年，今井出版，36－45.
・「環境のサイエンスを学ぼう－正しい実験・実習を行うために－」，（共著），2016年，丸善プラネット出版.
・「環境のサイエンスを学ぼう－人と地球の未来のために－」，（共著），2011年，丸善プラネット出版.

【論文（2020年：査読あり）】
・「ドローン技術を活用した霧の鉛直気象情報の観測」（共著），2020年，環境情報科学センター，環境情報科学学術研究論文集34 No.34 228 - 233.
・「風の乱れが引き起こす発電損失－理論値と実測値の差－」（共著），2020年，日本風工学会，風工学シンポジウム論文集 26 59 - 66.

【国際会議】
・「Impact on crops due to high temperature in Toyooka City, Hyogo Prefecture」（単著），2021，International Symposium on Agricultural Meteorology 2021（Online conference）
・「Ground inversion layer that occurs in Hoki Daisen」（単著），2021，International Symposium on Agricultural Meteorology 2021（Online conference）
・「Radiation fogs extinction process estimated from illuminance change」（単著），2020，International Symposium on Agricultural Meteorology 2020（Osaka, Japan）
・「The Thermal Environment of the Hanshin Area Brought by Thermal Local Circulation of the Rokko Mountains」（共著），2019，Asia Oceania Geosciences Society（AOGS）16th Annual Meeting（Republic of Singapore）.
・「Verification of Thermal Environments and Temperature Reduction Effects in the Kumamoto Castle Park Using WBGT」（共著），2019，Asia Oceania Geosciences Society（AOGS）16th Annual Meeting（Republic of Singapore）.
・「Hot Environments and Temperature Reduction Effects within Large Urban Green Spaces－Meteorological Observations Around the Kumamoto Castle Park－」（共著），2019，International Symposium on Agricultural Meteorology（Shizuoka，Japan）

【招待講演】
・「気象と環境変化が自律神経バランスに与える影響」，日本建築学会，AIJ シンポジウム「スマートウェルネスオフィスの未来」，2021年.
・「雲海予報は観光振興の呼び水になるのか！？－霧の発生メカニズムを探る－」，2019年度鳥取地学会年末講演会（鳥取）.
・「気象災害軽減に向けた防災情報の活用法」2019年度鳥取市防災リーダーフォローアップ研修（鳥取）.
・「IoT技術の進展がもたらす気象観測データの有用性」2019年度 IHIグループ 明星電気ビジネスパートナーミーティング（東京）.

【国内学会：筆頭講演者】
・「中国地方における花粉飛散量と気象要素の関係性」（共著），2020，2020年度日本農業気象学会中国四国支部大会（オンライン大会）.
・「宇都宮市で発生するヒートアイランドと土地被覆形態の関係」（共著），2020，2020年日本地理学会秋季学術大会（オンライン大会）.
・「風の乱れが引き起こす発電損失－理論値と実測値の差－」（共著），2020，日本風工学会，第26回風工学シンポジウム（オンライン大会）.
・「岡山県津山盆地における湿数変化と照度の関係性－地上観測から推定する霧の消滅過程－」（単著），2020，日本気象学会2020年秋季大会（オンライン大会）.
・「大分県日田盆地で発生する放射霧の動態－タイムラプスカメラによる霧の定点観測－」（単著），2020，日本気象学会2020年秋季大会（オンライン大会）.
・「急激な気象変化が若年女性の自律神経バランスに与える影響」（共著），2020，日本気象学会2020年春季大会（神奈川）.
・「照度と湿数変化から推定される放射霧の消滅過程－岡山県津山盆地を例として－」（単著），2020，日本気象学会2020年春季大会（神奈川）.

■社会貢献活動
・ＮＰＯ法人バイオクリマ研究会 理事（2014年5月～）
・日本生気象学会評議員（2019年10月～）
・日本ヒートアイランド学会 学会誌委員（2016年6月～）
・鳥取県環境影響評価審査会委員（2016年9月～）

研究キーワード
ナレッジマネジメント, 地域資源管理, 在来品種

山口　創

准教授

YAMAGUCHI, So

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail so-yama@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　農村の持続的発展, 都市の持続的発展

■研究者略歴

2007（平成19）年 3月	神戸大学農学部食料生産環境工学科　卒業
2010（平成22）年 3月	神戸大学大学院農学研究科食料共生システム学専攻　博士課程前期課程修了
2011（平成23）年 4月	日本学術振興会特別研究員（DC2）（～2013年3月）
2013（平成25）年 3月	神戸大学大学院農学研究科食料共生システム学専攻　博士課程後期課程修了　博士（農学）
2013（平成25）年 4月	神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター　特命助教
2017（平成29）年10月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科　講師
2018（平成30）年 7月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻　講師
2023（令和 5）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科　准教授
2023（令和 5）年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻　准教授

Research

■取得学位　博士（農学）（神戸大学）

■専門分野　農村計画学，ナレッジマネジメント，農業経営学

■現在の研究テーマ
・農業・農村におけるナレッジマネジメント理論の構築に関する研究
・在来品種の特産化手法の構築に関する研究
・農村地域における人材育成に関する研究

■所属学会　農村計画学会，地域農林経済学会，日本農業経済学会，環境情報科学センター，日本農業経営学会

Data

■研究等活動

【著書】
・山口創（2018）在来品種の特産化プロセスと活用に向けた方策―丹波黒，薦池大納言を事例に―，pp.83-93，地域固有性の発現による農業・農村の創造（中塚雅也編著），筑波書房.
・山口創（2016）黒大豆栽培における知恵の継承と創造，pp74-87，エシカルな農業(伊藤一幸編著)，誠文堂新光社.

【論文】
・陣内綾・山口創（2021）大山頂上の自然保全活動における人材確保の実態と課題に関する一考察，環境情報科学学術研究論文集，35，292-297.
・山口創（2021）農村地域の文化的知識の継承活動における動機づけに関する研究―鳥取県鳥取市S地区における民話の継承活動に着目して―，農業経済研究93（1），pp.77-82.
・山口創（2020）テキストマイニング の特徴と農村計画研究への導入，農村計画学会誌39（3），pp.294-297.
・山口創（2017）住民主体の自然資源の保全活動における知識管理の実態と関係主体の役割―あびき湿原の保全活動を事例として―，環境情報科学学術研究論文集31，pp71-76.
・山口創 (2016) 農場実習における大学生の知識習得・意識変化に影響する要因の分析，農業経済研究，88(3), pp. 345-349.
・山口創・吉田康子 (2016) テキストマイニングを用いた農場実習における大学生の学習内容の把握，環境情報科学論文集 30, pp. 243-248.
・山口創（2016）教育関係共同利用拠点制度における大学農場の農業実習教育の展開と課題. 農林業問題研究，52, pp. 205-210.
・山口創（2015）在来品種の顕在化プロセスと展開課題，環境情報科学論文集29，pp.83-88.
・山口創・趙松楠・中塚雅也・山下良平（2014）テキストマイニングによる農村地域課題の特性と変化の把握―兵庫県を事例として―，農林業問題研究，50（2）,pp.107-112.
・山口創・中塚雅也（2013）黒大豆特産地にみる農業生産知識の管理構造，農林業問題研究，49（1），pp.32-37.

■社会貢献活動

・第49.50回JA鳥取県大会審議委員会委員，新温泉町総合計画審議会アドバイザー，鳥取県都市計画審議会委員，市川町笠形地域づくり協議会 ナレッジマネジメント支援